

3 総括（統括ファシリテーターによるまとめ）

(1) 各グループの話し合いのテーマ

各グループで決めた話し合いのテーマについて下記の表にまとめました。

※話し合いのテーマについては前回の市民意見募集や意見交換会から導き出されたテーマとして「海・みなと」、「国際性・非日常性」、「先進性」、「緑・環境」、「歴史・文化・芸術性」、「観光・MICE」、「市民のための再開発」、「エンタメ・スポーツ」の8つのテーマを提示したうえで自由に設定していただきました。

第1回(12/17)

グループ	話し合いのテーマ
A	エンタメ・スポーツ×歴史・文化
B	歴史・文化・芸術性／先進性
C	先進性／緑・環境／第3のテーマとして「市全体の中での山下ふ頭開発」のあり方を考える／歴史・文化・芸術性の観点
D	緑・環境／エンタメ・スポーツ／市民のための再開発／国際性・非日常／海・みなと／歴史・文化・芸術性(6つのテーマを総合)
E	歴史・文化・芸術性×海・みなと×市民のための再開発／エンタメ・スポーツ／市民のための再開発
F	“次の世代に何を残すのか”“今なにかよりも、世の中の先がどうなるか”／緑・環境／観光・MICE、歴史・文化・芸術性、エンタメ・スポーツ
G	先進性(主テーマ)／エンタメ・スポーツ(具体的なコンテンツ)／最先端の環境と人が集まる魅力的な場所とするための方策
H	国際性・非日常性／緑・環境／市民のための再開発

第2回(1/14)

グループ	話し合いのテーマ
A	海・みなと(世界の中での横浜の立ち位置、市民が楽しめる港)
B	先進性(主テーマ)／エンタメ・スポーツ(具体的なコンテンツ)
C	海・みなと(港らしさを残す)、緑・環境(緑と水辺を活かした景観づくり、まちとの繋がりを生んでいく)
D	観光／全世代の参加／持続可能性／先進性／命と暮らし優先／収益性／海／公園や緑地／港／歴史／スポーツ
E	海・みなと(場所の力を活かす)／エンタメ・スポーツ、観光・MICE(経済活性化)／緑・環境／市民のための再開発(資金マネジメント)
F	歴史・文化・芸術性(文化の発信)／市民のための再開発(持続性のあるまちづくり、インクルーシブなまちづくり、みなとみらいと同じような街にしない)

第3回(1/21)

グループ	話し合いのテーマ
A	先進性(先端研究の頭脳が集まり若者や起業者を惹きつけるフィールドづくり)／市民のための再開発(大学や企業の開かれた施設や活動によって市民も接点をもち楽しめる環境づくり)

B	海・みなと／先進性／緑・環境／エンタメ・スポーツ／市民のための再開発／避けたいこと／事業性
C	海・みなと(市民のための再開発)／防災(再開発の前提)／緑・環境×先進性×観光・MICE、歴史／次世代への継承(再開発の前提)／教育(国際性・非日常性)／経済性(再開発の前提)／世界初(先進性)／市民を中心とした再開発(再開発の前提)
D	市民のための再開発(集客・税込確保を前提に)

第4回(1/28)

グループ	話し合いのテーマ
A	緑・環境／緑・環境／海・みなと／海・みなと／海・みなと／市民のための再開発／市民のための再開発／文化／防災／交通
B	緑・環境／海・みなと／歴史・文化／観光・MICE／エンタメ・スポーツ
C	市民のための再開発(ゆったりとしたいやしのある環境づくりを中心に、市民のための公共的な場所づくりを検討する)
D	海／港／文化・教育／子ども／交流／山下ふ頭への思い／市がイニシアチブをとる

第5回(2/5)

グループ	話し合いのテーマ
A	市民のための再開発(市民目線でのまちづくりを基本に)／海・みなと、緑・環境、先進性(若者を惹きつけて育てる、オンリーワンのキャンパスタウンづくり)
B	税込の増加／エンタメ・スポーツ／観光・MICE／歴史・文化・芸術／交通／国際性・非日常性×先進性／先進性×緑・環境／市民のための再開発／海・みなと／主軸、ターゲット
C	進め方について／緑・環境／海・みなと／観光・MICE／国際性・非日常性／歴史・文化・芸術性／市民のための再開発／先進性／エンタメ・スポーツ
D	先進性(開港＝時代の先取り、世界に向けた日本のシンボルとなる)／市民のための再開発(憩いや生活サービス、税込アップ)
E	国際性・非日常性／観光・MICE／先進性／エンタメ・スポーツ／市民のための再開発／安心・安全・健康
F	海・みなと、市民のための再開発(港の景観を生かす、ワクワクさせるふ頭開発、横浜全体の経済的な起爆剤に)
G	市民のための再開発(「これからの海のコウエン・市民のコウエン」、先進的で持続的な開発)
H	横浜らしさ・横浜の独自性(「ストーリー」をいかに作るか、世界に波及効果をもたらす、多くの人(知)を巻き込んで発展していく再開発とそのプロセス)

【テーマの絞り込みについて】

- ・多くのグループが例示された8つのテーマの内、複数を選択して議論を行っていました。
- ・全てのテーマが重要且つ単独あるいは複数であっても切り離して議論は出来ないというようなご意見がありました。
- ・「市民のための再開発」を選択したグループが最も多く、次いで「海・みなと」「先進性」「緑・環境」「歴史・文化・芸術性」「エンタメ・スポーツ」を絡めたものが多い結果となりました。その他、「市全体の中での山下ふ頭」「次の世代に何を残すのか」「横浜らしさ・横浜の独自性」といった独自に設定したテーマも見られました。

(2) 再開発のイメージのまとめ

グループワークで出された再開発のイメージ(再開発で大切にしたいこと)について、テーマのカテゴリーごとに意見の内容に着目して、再開発のイメージを類型化しました。なお、テーマごとにまとめるにあたり、各テーマの中で共通して議論がなされていた「景観」を新たに設定するとともに、「観光・MICE」「エンタメ・スポーツ」がほぼ同義で議論されていたことから、それらを「観光」として集約、再開発の前提あるいは全体に係るテーマ等については「市民のための再開発」の中で取り扱うこととしました。

カテゴリー： ①海・みなと／②観光／③景観／④国際性／⑤市民のための再開発／⑥先進性／⑦緑・環境／⑧歴史・文化・芸術性

①海・みなと

再開発のイメージ	内容
サステイナブルを実現する	●地産地消や資源・エネルギーを循環する活動を海上のキャンパスで取り組む場ができる
	●持続可能な環境づくりにお金が集まる時代になってきている
	●既存の環境や施設を資源として利用することで環境負荷が小さい開発に
横浜のアイデンティティ	●横浜の強み・らしさは海・みなと。価値の高い資産を活かしたい。さすが横浜と思われたい
	●「海」を考慮しないわけにはいかない
	●海の広がりを感じる、海が見えて憩う場になる
	●世界を感じられる
	●海・歴史を大切にして、市民の参画を進めていきたい
	●海・みなとは横浜のアイデンティティ(郊外区にいと臨海部にあまり来ない)
	●横浜の港としての魅力を生かす
	●海から感じる「冒険」のイメージがある
	●横浜といえば海
	●横浜のシンボリック役割は、海＝国際性
	●一時的に稼ぐハコはもうよい。海をまず大事にして、できれば何も無いオープンな場所を作りたい
	●オンリーワンのものがあることが大事。とんがったものを考えたい
	●海があるので、海を大切にしたい
●港・水と緑が「海と人が調和して、ゆったり流れる時間」の源流となっている(非日常的な街の体験の重要な要素)	
●海、港、都市が一体化した空間であることが財産	
横浜ブランドを創る・高める	●横浜への新しい入り口をつくる
横浜らしい景観が見れる	●世界の人に誇れる夜景の景色を活かしていく
横浜らしさが感じられる	●横浜と他の都市との違いを感じられる。横浜らしさ

海と緑が調和している	<ul style="list-style-type: none"> ●「第2山下公園」にしたい ●市民のための広間、自然を大きく取り入れる
海に面する特性を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ●海や敷地の広さを活かして、一つの世界観をつくる ●海に囲まれていることを活かす ●海洋研究の場に行きやすいことがオンリーワンになる(海上に実験農園など) ●魚を育てて食べられるなどできたら良い ●山下ふ頭は3方向を海に囲まれた貴重な場所である ●海のイメージが強い立地特性を活かす。海との関係を大切にしたい ●羽田に直結する高速船を誘致 ●海を最大限活用(海上交通、運河チャレンジと結びつける、パーク&ライドの拠点など) ●海洋、海洋生物に関わる水族館、海に触れられる場 ●水上交通(客船など)の活用 ●海の環境との親和性を大事に ●場所が離れていることを活かして人を隔離する施設があっても良い(病院、刑務所など) ●海に面した美しい空間としたい(ex.シンガポール)
開放的な憩いの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●遊歩道、木陰、風の道をつくりたい ●ウォーターフロントとしての広い空間を残す
港に親しみが持てる	<ul style="list-style-type: none"> ●「みなと」を親しめる場所にしたい ●物流、海運の活動を何らかのかたちで伝えていけるとよい ●港文化の継続性
港町の風景が見れる	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜の顔である港らしい景色や地形を残したい ●水辺の景色、海と街をつなぐ ●非日常的な元の港のイメージを残しながら、新しい価値創造によって更新する ●「港の雰囲気」が山下を含む街全体をゆったりとつないでいる ●ふ頭の機能を復活させたい(以前は貨物船で賑わいがあつた) ●港町としての憧れの場所を残していきたい(船の行き来や入港の様子、コンテナが並ぶ風景など) ●港のイメージ、ウォーターフロント、景観、発信 ●眺めの良さ、岸壁の良さ、文化の最先端の港町という特性を活かしたい
国際交流の拠点になる	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の港町と連携したい(ex.オーランド)
国際都市としてのイメージがアップする	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の中での横浜の立ち位置は何かを考え、日本一のみなとまちとして第二の開港を目指し、世界の港湾都市の将来像(=平和であること)を発信したい

市民が楽しめる・利用できる	●都心部、みなとみらい、赤レンガなどの水際が立ち入れる場所になってきたことをさらに発展させたい
	●郊外区に住んでいる人たち(子ども達を含む)は、海・みなとの恩恵を受けることができていない
周辺の景観と調和している	●周辺の丘から海への眺望を確保したい(ふ頭に阻害建物をつくらない)
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	●横浜ヨットハーバーとの連携
	●内港の各地区の役割分担を考えるべき
	●開港の歴史、古いものを大事にした関内のまちづくり等とつないでいきたい
新しい文化が育つ	●新しい歴史・文化を育てていこう
	●大衆文化を育てるインキュベーション、オンリーワン
	●音楽をやる人が駅前ライブからメジャーデビューするように(キーワード・愛称として『はまたまご』)
先進的なまちである	●2010年2月策定の「次なる50年横浜市は海都へ」提言書の方向。横浜の先進的都市づくりの経験をふまえ、転換期に
船が停泊する	●横浜港は船が入って来られる数に限りがあるので、山下ふ頭に期待したい
	●波止場の機能を残す
	●港の施設を活かす
	●ディズニークルーズを呼び込む、思い切ってベイブリッジを海底トンネルにして大型客船を内港まで呼び込むようにしたらよい
	●国内物流を支える5000隻の内航船が航行する現状に対して、それらを受け入れる設備がある港は少ない
防災機能を備える	●緑地は災害時、避難の生活場所にもなる
	●いざというときに(災害発生時など)使える
	●減災・防災、防災船着き場の整備
歴史・文化を尊重する	●かつての活力があった港の歴史を伝え生かしたい。港湾荷役やだるま船は港らしい風景だった
	●開国や埋立、京浜工業地帯の歴史を伝えたい
	●開港の原点に戻った開発をするべき

②観光

再開発のイメージ	内容
サステイナブルを実現する	●衣食住が循環できる街
	●人が来なくなると最悪。横浜ベイスターズも苦勞してやっと顧客を確保できた。人を呼べるコンテンツが大事
	●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
シンボルがある	●横浜のシンボルとなる大きな施設がほしい
ナイトタイムの活性化	●夜も楽しいヨコハマ、今ある魅力(全て揃っている)をプラスに
	●リゾートみたいにしたい(横浜全体を玉手箱に)
横浜の魅力をアップする	●現在の横浜には行って楽しい場所があまりない
	●みなとみらいや新港パークはファミリー志向が強いため、非ファミリー志向のエンタメが良い
横浜ブランドを創る・高める	●東京じゃなくて横浜に行きたいと思えるものが必要
	●メタバースとリアルが融合した他にないような場所にしたい
	●近くにすでにあるようなものは作らないでほしい
	●何が自慢か(開港の歴史、横浜発祥など)
	●修学旅行生や海外から船で到着した観光客がつまらなそうにしていた(観光客が何をしたらいいのかわかりにくい、楽しくてまた来たくるようにしたい)
	●県内企業の活性化(ジャズ、アイスクリーム、スカーフなど横浜発の文化を体験できるものの開発を依頼する)
海に面する特性を活かす	●外国人を呼び込むインバウンド、海に囲まれた立地を活かして海洋リゾート
	●ウォーターフロントを走れることが魅力
	●水辺のレジャーはまちと海を繋ぐきっかけとなる
	●ミナトの空間とコンテンツを活かし、船など、移動の体験自体を楽しめるようにしたい。ロープウェイもできると楽しい風景になっている
交通利便性の向上	●交通の利便性が良くないと人は来ない(現状ではアクセスが悪い)
	●公共交通機関の整備、羽田・成田とのアクセス強化。アクアラインの延長
	●自動運転、外国の人が働いていたら行きやすい
	●海に囲まれた立地は良いが、交通アクセスが悪い
	●集客施設にするなら、交通の整備が必要
国際交流の拠点になる	●国際大会の開催や市民が普段から利用できる機能・施設
	●交流を深め競争力を高める
	●アジアから若者たちが集まる場所にしたい
市全体の活性化に寄与する	●県内企業の活性化(ジャズ、アイスクリーム、スカーフなど横浜発の文化

	を体験できるものの開発を依頼する)
市民が楽しめる・利用できる	●横浜市内からのアクセスをよくする
市の収益の向上	●儲けることが重要
	●お金を落としてほしい
	●市の財政に中長期的に配慮する
	●エンタメ、インバウンドに依存しすぎない
	●海外からのマネーを期待(宿泊による収益など)
	●市民のためのお金を生み出す(持続的な経済の循環)
	●三浦・箱根等観光のハブになる(オール神奈川意識)
	●海外からのお客さんに頼らない
	●外から誘客することで収益を
	●子ども、次世代のために税収を確保したい
次世代につなげる	●子ども、次世代のために税収を確保したい
	●若者が集う場所にしたい(フットサルができる場所にしたい)
	●若い人の記憶に残るような場所にしたい
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	●国際会議場やショッピングは既存のみなとみらいのものを生かした上でさらに必要かを検討すべき
	●周りの施設や街に扇状に広げていく要として考える
	●パシフィコ横浜の稼働率はどれくらいか(神戸との比較データなど、深掘りする前にデータの共有が足りない)
	●関内関外は利用者にとってテイストの違う街を楽しめるエリアになっていることを生かしたい
	●元町、中華街、関内、山下公園をコラボしたまちづくりが求められる。それぞれでは経営的に厳しくなっている
	●市全体への波及効果(他の埠頭、周辺地域との繋がりの中で考える)
	●横浜の中心的な場所にある(中華街、みなとみらいと近い)
	●他の場所が連動して全体的に活性化につながる
	●既存のまちの魅力を壊すオーバーツーリズムにも配慮する必要がある
新しい文化が育つ	●若いクリエイターの応援、発表の場づくり
	●新しいカルチャーをつくりたい
新たな産業や技術を創出する	●他国ができない技術を発信。日本の経済を活性化したい
居住できる	●住居機能があっても良い
	●職住一体の観光地に(MICEの要素も取り入れた新しい観光地)
世界から人が集まる	●ワクワクする。ワクワクさせる(人が生きている。人を呼ぶのだからワクワクは必要)
	●アーバンツーリズム、海外向けのプロモーション
	●富裕層を呼ぶようなホテル
	●外国人が魅力を感じる、今までにないコンセプトのまちづくり

	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な人を受け入れる価値観をもったまちとして、パラエンタメ、パラアート、eスポーツ等によるここでしか見れないメッカ・発祥の地にしたい、スターを生み出したい
	●水辺を使ったパラの活動も広げることができる
	●外から誘客することで収益を
	●ポイントは、継続的に人を集めること、常時使えること(ex.マルチコンサート会場)
	●人が来なくなると最悪。横浜ベイスターズも苦勞してやっと顧客を確保できた。人を呼べるコンテンツが大事
	●市民も集まる、日本中・世界中からも集まる
	●ラグビー・サッカーの国際試合ができる競技場(ラグビーW杯で世界中からたくさんの人が来て楽しかった)、最先端設備のアリーナ
	●MMの会議場は規模が小さいので、もっと国際的なものにする必要がある
	●より大規模なMICE国際会議場
	●非日常、他県や外国から人が来る
	●金持ちだけではない、広い層の海外の人々が来られる
世界から注目される	<ul style="list-style-type: none"> ●eスポーツなど、今までになく、これから注目されるものための場所 ●話題性をつくる
先進的なまちである	<ul style="list-style-type: none"> ●ヨコハマの観光は海や港のイメージが強い。そのイメージを崩さず先進性と観光を組み合わせたい ●観光と先進性のリンク(ヨルノヨなど) ●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
船が停泊する	●新しい交通、エンタメ(観光)、船の利用
多世代が楽しめる・交流できる	<ul style="list-style-type: none"> ●まちに人を増やして活性化したい、ファミリー層や若い人を増やしたい ●日常的に楽しめるエンタメ・スポーツのメッカとしたい ●人を集めることがこれからのまちづくりに必要 ●子どもたちも楽しめる場 ●特定の誰かではなく、みんなが楽しめる ●緑、海、風を楽しめる、家族で歩ける ●すごく豪華じゃないモノであること。お金がかかりすぎる場所はみんなが楽しめない ●周囲に遊園地はあるが、山下ふ頭にも遊べる施設を更につくっても良

	<p>い。幅広い年代が遊べる施設が欲しい</p> <p>●ベースは庶民が楽しめるもの。それは質のいいもので外からも来客が来るようなもの</p> <p>●子どもたちが楽しめるエンタメを</p> <p>●e スポーツ、BMX、ボルダリングといった、若いひとを呼べるスポーツ</p> <p>●企業、周辺住民、来訪者にとって楽しい街に(アフターファイブを楽しむエンタメ・ジム・飲食店など、ショッピングや気軽に使える体育館やプール、大学周辺にはキャンパスタウン)</p>
滞在時間が増加する	<p>●観光に来て泊まる人が少ない。泊まらせる仕組みが必要</p> <p>●閉ざされた空間だからこそ、長期滞在が出来る</p> <p>●宿泊客の誘致(横浜は日帰り客が多い、東京等に宿泊客が取られている、パシフィコ横浜等と違うものを整備して相乗効果を発揮)</p> <p>●スケールの大きさを活かして滞在時間を増やす(ディズニーランド・シーの横浜バージョンなど)</p> <p>●横浜に滞在してもらおう(今は通過して東京へ行っている)</p>
文化を活用する・発信する	<p>●日本はポップカルチャーで注目されている</p> <p>●市民も海外の人も楽しめるように。横浜の文化を体験するエンタメも。</p>
防災機能を備える	<p>●大きなスタジアムは避難施設になる</p>
歴史・文化を尊重する	<p>●日本ならではの歴史から先進性を学ぶ</p> <p>●新しいもので塗りつぶすようなまちづくりはNG</p>

③景観

再開発のイメージ	内容
シンボルがある	●ランドマークタワーに継ぐシンボルとしたい
	●山下ふ頭にしかない観光スポット、ランドマークを作って集客を狙う(映えるスポット、SNSの活用)
	●横浜を象徴するような建物がほしい
横浜ブランドを創る・高める	●国産木材を多用した建築、レンガやガス灯で街並みを統一するなど、横浜らしい街並みに
	●新しく建てるものは「赤レンガ」など歴史を感じるもの
	●ブランド価値を高めることができる
	●「古き良き横浜」「はじめての横浜」を活かした景観づくりをしたい
横浜らしい景観が見れる	●新しい眺望スポットが生まれる(海から見た港湾都市は美しい)
	●横浜らしい港の景観、夜景を活かす
誇れる街並みを創る	●景観の統一、バラバラでなく、大きなまとまりとしたい
	●木造ビルの技術を活用すると日本らしさがでる
	●海から観光客がやってくる(玄関口としてのイメージが大事)
	●MM側からの眺めも大事
	●写真を撮りたくなるようなお洒落でシンボリックな景観が必要(貧素なイメージはNG)
港町の風景が見れる	●海を見ると癒やされる。ふ頭から海への眺望を活かしたい
周辺の景観と調和している	●周辺の丘から海への眺望を確保したい(ふ頭に阻害建物をつくらない)
	●横浜を代表する観光エリアに隣接しているので
	●景観的なバランス、周辺との調和が大切
	●高さを抑えた街並み(最大10階建ての高さ制限など)

④国際性

再開発のイメージ	内容
シンボルがある	●横浜のシンボルとなる大きな施設がほしい
異文化・多文化にふれる	●国際性・異移民、多文化に触れる(触れる機会が少ない)
	●様々な国の人たちが集まる、世界の人たちと触れ合える
横浜のアイデンティティ	●横浜にはかつて今も様々な国々の歴史・文化が感じられる国際性が必要
	●国際性という観点では神戸に負けているのでは(外国人観光客の満足度など)
横浜の競争力を高める	●国際競争力を高める(グローバル)
国際交流の拠点になる	●大学を誘致し、移住者を呼び込む、国際的な人間を育てられる場に
	●外国とのネットワーク拠点となれる場所なので、文化的に生かしたい
	●ヒト・モノ・コトの交点、人と人との交流、つながる、つなげる場づくり
	●ハマを中心に(日本を、世界を)インヴォルヴする(巻き込む)
	●ポンピドゥー・センターのような文化拠点を
	●アジアから若者たちが集まる場所にしたい
市の収益の向上	●将来の支出を減らしたい
	●財政の健全化(市債の発行額がとても多い)
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	●既存のまちの魅力を壊すオーバートゥリズムにも配慮する必要がある
	●エリア構想、コンセプトが必要(横浜沿岸構想)
新たな産業や技術を創出する	●企業や大学とのイノベーション(ex.川崎キングスカイフロント)
	●MM新高島では企業誘致がうまくできている(特区、税制優遇、国家連携など)
世界から人が集まる	●金持ちだけではない、広い層の海外の人々が来られる
先進的なまちである	●横浜は日本の先進性の象徴であることを共有したい
多世代が楽しめる・交流できる	●ベースは庶民が楽しめるもの。それは質のいいもので外からも来客が来るようなもの

⑤市民のための再開発

再開発のイメージ	内容
サステイナブルを実現する	●21世紀型の持続可能な住宅、ごみゼロ、エネルギー循環等で徹底的に環境に配慮した街をつくる
	●将来に負の遺産を残したくない
	●コスト面で実現可能なもの(横浜の荷物にならないように)しなければならぬ
	●無理のない維持管理
横浜に住みたくなる・住み続けたい	●住み続けたいランキングが低いため、子育て支援、若者支援
	●人口減少に備え、市民になりたい人を増やすことが必要(市民になると使える施設、そこには、他では得られない風景や体験があるなど)
	●人口を増やそう。定住移住する若者を呼び込みたい
	●人口減少、街の衰退を止めていく動機付けにつなげたい
	●住み続けたいまち横浜のきっかけになるまちづくりを望む
	●訪ねて楽しむまちより、移住定住地としての横浜を目指す
	●生産年齢人口が増えて欲しい(2065年には15~65歳人口が50%前半になる)
●若者中心に人材を集めて育てる	
横浜の魅力をアップする	●とにかく横浜の魅力をアップする場所にしてほしい
横浜ブランドを創る・高める	●横浜への新しい入り口をつくる
	●他都市と競争しないものがほしい
	●テーマのない再開発(なんでも詰め合わせたような幕の内弁当的なものはダメ)
	●中長期的に価値のある取り組みのシンボルとしたい
横浜らしさが感じられる	●横浜と他の都市との違いを感じられる。横浜らしさ
	●他の大都市にはない、横浜らしさを大切にしてほしい
海に面する特性を活かす	●海を最大限活用(海上交通、運河チャレンジと結びつける、パーク&ライドの拠点など)
	●ユニークな海上キャンパスを実現ができる
開放的な憩いの場づくり	●ゆっくりしたい。おしゃれとかかっこいいはもういらぬ
教育・知的探求の場	●時代の転換点→歴史的使命→知的拠点→コンセプト「文化公園」
	●知的牽引、横浜市の方策総合化、関連人口の増加(通りすがりではなく)、都市計画上最適の施設(関連で八景島を文教地区にしたい)
	●文化(知)、市民の成長
	●チャライものにはしたくない、どっしりしたものにした

	<ul style="list-style-type: none"> ●人が集まり、楽しみ、学べる、情報の発信ができる平和都市「山下ふ頭“区”」の実現(多様な価値観を認め合える、交流の大切さを学び、発想の転換が出来る、市民自治、主権者意識を育てる) ●明石市の子ども政策を参考に、教育に力を入れている都市に人が集まる ●若い世代の交流があることで、周辺にもいい影響がある ●未来への投資、子どもが参加できる場をつくる
交通利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●生活者のため、観光客のための交通 ●山下公園→山下ふ頭の道路がボトルネックにならないように ●アプローチが楽なこと。山から降りてくる人に
国際交流の拠点になる	<ul style="list-style-type: none"> ●緑に囲まれたインターナショナルスクール
市全体の活性化に寄与する	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜全体の経済的起爆剤にする ●今の横浜を活性化できる場所
市民が楽しめる・利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が港に近づけない、入れない。市民が楽しめないものは外部から関心が持たれない ●市民が最も活用できる施設(子どもがのびのび遊べる、高齢者がゆとりをもって時間を過ごせる、観光客はその次) ●市民のための場所にしたい ●五感に響く機能を体現できるものがほしい。水辺を市民に開放したい(結果的に税収増につながる) ●市民が毎週行ける場所が必要(大学、図書館、公園など) ●開かれた場所としたい(ex.つくば学園都市、東京大学) ●市民に優遇がある施設 ●市民から愛着がないといけない ●倉庫群から市民のための場所に ●公平性。特定の人だけでなく様々な世代、住人が利用できる(それを自分たちで作り出すマインドが大切) ●儲けを主眼には置きたくない ●「産学連携」や「賑わい創出」といった言葉ではなく、市民を中心とした開発にしたい ●企業+周辺住民+来街者にとってのメリットのあるものに ●縁の下の力持ち。シンボル化しない

	<ul style="list-style-type: none"> ●市の土地に、ビジネスに走るような大学や施設は断りたい(大学法人は一般に土地を持つだろうが、土地処分や賃借のあり方はよく検討したい) ●企業提案のイノベーション拠点とは性格が異なる市民目線のまちづくりを追求したい ●住み続けたい、横浜で楽しみたい ●区の真ん中に位置しており、色々な地域の住民が関わることができる ●子ども用の広場、子育ての交流
市の収益の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●稼げるコンテンツ。市全体の弱体化を新しい産業で強化していく ●コスト面で実現可能なもの(横浜の荷物にならないように)しなければならない ●無理のない維持管理 ●ここでお金を生み出し、税金は他に使うべきである ●持続可能なまちづくりのためにはお金の調達が必要 ●横浜市はふるさと納税の流出も大きいので、それを補うことも考えたい ●税収をどこかで確保して進める(小さな部分で大きく稼ぐところも考える必要がある) ●一過性でなく、恒久的な財源を確保し、市民生活が潤うように ●税金の市外への流出、すすむ高齢化、人の流出に対しての取り組みを考えるべき ●平時からお金を稼ぐ手段(稼働率の高いもの、時代も読んで) ●開発が市民の生活に還元されるように ●市の財政に配慮する ●安定的な税収増、そのための恒常的な収益が必要 ●雇用を増やせば、住民税などの財源が確保される ●支出を減らし、収入を増やす ●つくって終わりじゃなく、維持することも考える必要がある(市の財政も考える、無茶なものはつからない、ハコモノはつからない) ●国際競争に勝ち抜くために、税収入を増やす ●他の自治体に比べて、法人税が少ない。税収が少ないと市民生活に影響が出る。法人を呼び込むことも必要 ●税収が増加すれば市民サービスに還元される(中学校の給食等)

	●税の増収となる事業に
	●山下ふ頭だけでなくオール横浜で税収アップ
	●横浜が儲かるような事業性のあるものであること
	●税金を使わない開発を進めたい
	●横浜は個人市民税 49%、法人市民税 5.8%であり、法人税が少ない
	●専門人材の滞在時間が増えてほしい
	●アクセス、将来性を考えて税などで成長する
	●財政改善のために税収アップを目指し、市民の生活サービスを充実させる
	●住みたい街、訪れたい街のため
	●収益・税収をあげること
	●横浜市の税収と、できるものの内容とのバランスを考えると、儲からなくてもよいので、赤字を作らない開発にしてほしい
	●開発のあり方(初期投資を抑え、持続的、循環的な経済の中で漸進的に整備を行う)
	●大きな面積のため、初期費用も比例して大きくなるが、横浜市の財政は厳しい
	●常にいっぱいの人が来ないと成り立たないようなもの、維持できないものにすべきでない
	●五感に響く機能を体現できるものがほしい。水辺を市民に開放したい(結果的に税収増につながる)
次世代につなげる	●50年後、100年後の未来の子どもたちのためなるもの
	●50年、100年と語り継がれるプロジェクトに
	●将来に負の遺産を残したくない
	●人口減の時代に箱モノ中心のまちづくりは不要
	●事業完了時の主世代のための再開発としたい
	●2040年には税収減に転じるので、広い土地を使って、100年先、200年先に残せる資産とする(例:山下公園は関東大震災の瓦礫で埋め立てられた復興のシンボル)
	●横浜市の未来、子どもたちの未来につながる場所や再開発
	●次の世代の人たちがイイね!と思えること
	●次の世代へ投資できるモノ・場所をつくる(市民として投資をしたくなる事業に)

	<ul style="list-style-type: none"> ●若者も再開発を自分のためのこととつなげて考えていきたい ●子育てや環境を大事にする、生活実感に寄り添った市政の上で、開発を考えるべき ●超高齢化の 370 万人の人口、交通インフラの弱さが原因で集客できない事態にならないように ●超高齢化、少子化を逆手にとった戦略を(道路の広さが大事、狭いと危険、自動運転など) ●未来の世代に向けた視点を持てる開発 ●横浜の未来、この国の未来、地球の未来を変えるような場所にしたい ●未来の子供たちや子育てのために ●何もつからない、次世代にまかせる
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺に存在する施設の類似施設は要らない ●周辺地区の活性化、周辺で稼げるように ●みなとみらいがすでにIR的な場所(大規模なMICE施設など)なので、あえてまたここに作る必要はない ●山下ふ頭だけでなく横浜一円で考えたい ●観光に関してはみなとみらいにたくさんある ●ハコもの中心のまちづくりから脱却したい。キラキラ施設は周りにもうたくさんある ●山下ふ頭で得られたノウハウや人材、資金を地域にフィードバックする(継続的な成長のためのエコシステム) ●まちづくりの視点をしっかりとつ、市全体を見て都市デザインの中で考える
身近な市民生活を豊かにする	<ul style="list-style-type: none"> ●子育てや防災に市政の重点を置くのが市民レベルの課題 ●企業誘致のための税金の使い道をやめて、市民生活(給食、学童)を豊かにする(みなとみらいでは多額の借金に苦しんだ。そのため子どもの医療、保育所などが大幅に遅れている) ●未来への投資として、市民の利益となる未来のまちをつくりたい。市民の利益としては有形のもの、無形のものなど様々な利益が考えられる
居住できる	<ul style="list-style-type: none"> ●コンドミニアム、アーティストインレジデンス ●港の先端に住める価値 ●21世紀の町家、長く住める住宅 ●商業地では閉店後に人がいなくなるため、居住地としても開発してほしい

	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区内に住んでいる人がいるまちにすることが、お店などを成り立たせるためにも必要 ● 住まいの導入(山本理顕によるマチヤの提案は興味深い) ● 居住者がいることが、サービスや人を呼ぶ ● まちには最低限の生活施設は必要
人材が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者中心に人材を集めて育てる ● スタートアップや発信ができる。 ● 大学、ものづくり、農業・漁業・林業の人材を育てたい ● 幅広い世代が学べる(リカレント・リスキリング)
世界から人が集まる	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学のまちにすることで世界から学生を集める ● 視察者や研究者が集まる
世界から注目される	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅モデルとして世界にアピールできる
先進的なまちである	<ul style="list-style-type: none"> ● 2010年2月策定の「次なる50年横浜市は海都へ」提言書の方向。横浜の先進的都市づくりの経験をふまえ、転換期に ● 自分一人ひとりのことを考えてくれるまちのモデルとして最先端の横浜であってほしい
多世代が楽しめる・交流できる	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定の市民でなく、年齢に関係なく楽しめる場所に
誰もが利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ● 少人数でも楽しめるような場所にしたい ● 笑顔でみんなが参加(全世代の人が笑顔になれる場所に) ● 全世代コミュニケーション、誰も取り残さない ● 弱い人に寄り添う街、命と暮らしを優先、教育も ● 人の優しさ、暖かさを大事に、どんな人でも移動しやすい社会に ● ボーダーレス社会の実現
文化を活用する・発信する	<ul style="list-style-type: none"> ● アーティストは感度が高いので、情報発信能力に長けている
防災機能を備える	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民が安心安全に暮らすためにここを活かしたい(食糧の備蓄や魚の養殖、中央卸売市場との役割分担など) ● 住民も来街者も利用するため、災害を念頭においた開発が必要 ● 津波被害を受ける場所だが、あえて防災拠点にして「何かあったら山下ふ頭に行こう」という場所にしたい ● 災害時、海上輸送でヒト・モノを運ぶことができる

	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の命を守る街に(日常生活で発生する命に関わることから身を守るが体験できる、災害が起きた際に避難場所として使用する) ●大規模な公園の地下に駐車場と備蓄倉庫を整備する ●海路により、支援物資と人の輸送ができる ●旅客船を避難施設・仮設住宅として利用できる ●命を守る体験、あらゆる施設にある備品がすべて命を助けてくれるのに役立つ ●色々な町やフィールドを再現してシミュレーションに使用、小中高・大学・企業との連携 ●舟型病院や防災食レストランなど、元々の機能や立地の特性を活用できる ●何かあった際にアクセスしやすいし、日常的には少し距離があるので防災関連の色々に取り組みやすい ●防災に配慮した施設に ●大きなスタジアムは避難施設になる ●津波に備えた人工地盤、シェルター、支援物資の輸送、ストックとしての場 ●災害に備える(浸水に備えた嵩上げ、上階に大事な機関などを配置するなど) ●屋根付きドームやスタジアムもあれば、災害時の避難や活動に使える ●周辺の居住者、勤務者、学生や、特に子どもたちが安心して過ごせる環境をつくり、守っていきたい ●都心臨海部に不足する広域避難場所を補完 ●近隣エリアも対象に含んだ避難場所として機能する ●災害に強い住宅 ●国際的な学生寮。非常時災害時の収容施設にも転用できる(大学本体はもっと落ち着いたところで学んで欲しいという考えもある) ※津波の時の安全は考慮する必要がある ※周辺の市街地の火災の時の避難場所にすることを考えると、居住地であることも適っている
歴史・文化を尊重する	<ul style="list-style-type: none"> ●開国や埋立、京浜工業地帯の歴史を伝えたい ●元々の機能が人々の日常のいろいろなところに関わってきたので、新しくなってもそうあってほしい
歴史資産を残す	<ul style="list-style-type: none"> ●既存の施設を利用することで埠頭の歴史を継承

⑥先進性

再開発のイメージ	内容
DX 等を取り入れる	●DXによる先進都市を実現したい
	●DX×AI技術によって、世界に向かって開かれた場所であり続ける
	●サイバー文化、メタバース文化、デジタル最前線
	●何を作るかではなく、どうPRしていくかを考え、デジタルで発信していった方が良い
カーボンニュートラルに取り組む	●再生可能エネルギーの研究開発一大拠点
	●エネルギーの自給自足、グリーントランスフォーメーションを実現したい
	●海+環境でカーボンニュートラルを推進したい
サスティナブルを実現する	●衣食住が循環できる街
	●SDGs未来都市として力を入れる必要がある
	●他都市に負けない日本を引っ張るような牽引力を持ちたい
	●地産地消や資源・エネルギーを循環する活動を海上のキャンパスで取り組む場ができる
	●持続可能な環境づくりにお金が集まる時代になってきている
	●サスティナブルなまちにするためには、消費だけではダメ
	●持続的な発展のため
	●チャレンジする実験都市であることが多くの人・企業を巻き込む力になる
	●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
横浜に住みたくなる・住み続けたい	●先進的でボーダレスで他にない環境を作ること(英語ファーストにするなど)が、横浜好きになる人、特に若い人が増える
横浜のアイデンティティ	●一時的に稼ぐハコはもうよい。海をまず大事にして、できれば何も無いオープンな場所を作りたい
	●オンリーワンのものがあることが大事。とんがったものを考えたい
横浜の競争力を高める	●スマートシティの実現(太陽光、地熱、海洋風力発電施設の研究施設、水素発電施設、自然エネルギーによるイルミネーションなど)
	●横浜でお金を使う人が増える
	●横浜を日本の最先端都市にする
	●世界、東京・千葉と競える
	●持続的な発展のため
	●チャレンジする実験都市であることが多くの人・企業を巻き込む力になる
横浜ブランドを創る・高める	●環境まちづくりをリードしたい
	●東京にもみなどみらいにもない尖ったまちづくり
	●横浜のイメージが良くなる(シンボリックな場所になる)
	●東京でもできていないことをやる
	●横浜にも行ってみたいと思ってもらう

	<ul style="list-style-type: none"> ●2030 年を考慮した世界初のアイデア、アイテムが必要(2030 年はずでに通過点) ●他にない先進的な未来都市を目指す、残す価値のある未来を創る ●世界にここだけの個性的なエリアにしたい ●一流のもの、洗練されたものが集まる場所に ●他都市とかぶらない ●大切にしたいみなとみらいのイメージがある ●ブランディング(横浜としてどうしたいかを考えることが重要) ●世界に誇れる、あこがれの街、世界から注目される場所に ●日本から世界へ(芸術ならパリ、のように)
海に面する特性を活かす	●海洋研究の場にできることがオンリーワンになる(海上に実験農園など)
国際交流の拠点になる	●次世代のアジアの結節点として、世界に誇れる場所にしていきたい
国際都市としてのイメージがアップする	<ul style="list-style-type: none"> ●友だちに横浜を案内、自慢したくなる魅力があると良い ●国際性、知的イメージをより伸ばし、イメージアップ
市民が楽しめる・利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ●大学や企業の協力で、スポーツや食、水族館などが楽しめる ●大学の所有するスポーツ施設を貸して活用、プロスポーツも呼ぶ
市の収益の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜の産業をつくる＝税収が確保できる ●横浜でお金を使う人が増える ●他の都市が全くやっていないこと、国内・国外に注目されることが必要(具体的には、21 世紀の住宅・住環境を整備。それが税収増にもつながる)
次世代につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜の未来に向けて貢献できる場所にするべき ●各世代が作っていくことができるコンテンツ。開発が山下ふ頭だけで終わらせるのではなく、開かれていくように
実証実験の場となる	<ul style="list-style-type: none"> ●自動運転、EVの実験空間 ●産・官・学によるスタートアップ支援やロボット、移動手段などの先進的な実証実験の場をつくりたい ●持続可能、カーボンニュートラルの研究開発／実験施設(ex.ウーベンシティ) ●モビリティの先進化、そのための実験場にしたい ●GAFAM等の拠点にしたい ●横浜＝実験都市(交通系実証実験など) ●それらを活用したイメージ戦略が可能 ●教育、研究、実装の場を市民、子ども、観光客も体験ができる
新しい文化が育つ	●芸術の実証実験特区、若いアーティストへの支援
新たな産業や技術を創出する	<ul style="list-style-type: none"> ●サステナブルなまちにするためには、消費だけではダメ ●海外に比べて技術は劣っていない。山下ふ頭で研究等ができるが良い

	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の技術者が憧れるような、先端技術を生み出す場所にしたい ●シンギュラリティ(人工知能が人間の知能を上回る時点)以降の世界を見据えた未来志向の社会を作らなければならない ●先進的なまちづくりでは、都市の中にしっかりと緑がある ●特区を形成し、最先端の研究がしやすい環境づくり ●先進的な技術や情報が集まる場所にしたい ●最先端の教育、研究、実装の場を軸に、大学や企業を育てる環境づくり ●教育と企業の研究開発が連携、両立していくべき ●大学や研究機関がほしい。本社機能を集めたい ●環境先進都市、再生可能エネルギーの世界的頭脳が集まる ●研究、グローバルを支える多文化／多様な環境づくり ●企業や大学とのイノベーション(ex.川崎キングスカイフロント) ●MM新高島では企業誘致がうまくできている(特区、税制優遇、国家連携など) ●新しい産業がスタートアップする土壌、高い所得の人が集まる(東京、大阪にないもので競合しないことを考えたい) ●他国ができない技術を発信。日本の経済を活性化したい ●これといった産業が弱い ●先進的な産業を育てていく必要がある ●情報化の進展と産業の発展に繋がってほしい ●先進的な取組みで横浜の成長につなげたい
人材が育つ	<ul style="list-style-type: none"> ●知識集約、スタートアップ、学習への投資と継続が大事
世界から人が集まる	<ul style="list-style-type: none"> ●未病、医療を絡めた海外からのツーリズムを呼び込む ●世界に開かれたもの出ないとグローバル化に対応できない
世界から注目される	<ul style="list-style-type: none"> ●現代の文明開化、日本の先端都市としての横浜をアピール ●他の都市が全くやっていないこと、国内・国外に注目されることが必要(具体的には、21世紀の住宅・住環境を整備。それが税収増にもつながる) ●世界に向けた日本のシンボルとしての横浜であり続けてほしい(かつては開港・西洋文化のシンボル) ●世界の中の都市として位置づけられたい(かつて大戦前は世界2位の金融取引、世界一の港)
先進的なまちである	<ul style="list-style-type: none"> ●先進性、技術力がこれからの時代に必要 ●先進的でボーダレスで他にない環境を作ること(英語ファーストにするなど)が、横浜好きになる人、特に若い人が増える ●先進性が横浜のアイデンティティ(常に先進的なことをしてきた街だとい

	う認識と自負、伝統と融合した横浜のブランド)
	●環境先進都市、関連技術が学べる
	●横浜の観光は海や港のイメージが強い。そのイメージを崩さず先進性と観光を組み合わせたい
	●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
多世代が楽しめる・交流できる	●お金を払わなくても楽しめる
	●幅広い世代が楽しめる
	●利益第一ではない再開発に
	●広い世代に使ってもらえる場所にしていきたい
滞在時間が増加する	●観光に来て泊まる人が少ない。泊まらせる仕組みが必要
	●閉ざされた空間だからこそ、長期滞在が出来る
文化・芸術に触れられる	●コンテンツ力を海外からも集積
歴史・文化を尊重する	●イノベーション偏重ではなく、文化としての大学を考えたい
	●日本ならではの歴史から先進性を学ぶ
	●横浜開港のイメージ(=先取り)

⑦緑・環境

再開発のイメージ	内容
カーボンニュートラルに取り組む	●エコ・脱炭素は時代に必須。国や世界の目標に貢献したい
	●省エネ・再エネは世界で求められている
	●少なくともエリア内でカーボンニュートラルを実現、近隣が大都市なのでバックアップ電源にもなる
	●自然エネルギーの可能性を追求
	●カーボンニュートラルの実現(再エネ、省エネ、水素エネルギーを活用した次世代交通システムなど)
	●周辺に建物が無いので、太陽光パネルは機能しやすい
	●波力発電、潮力発電の技術開発
サステイナブルを実現する	●衣食住が循環できる街
	●脱炭素化や緑環境を守る、SDGs
	●循環するシステムとそれを支えるコミュニティ
	●持続可能な社会の実現
	●SDGs未来都市として力を入れる必要がある
	●他都市に負けない日本を引っ張るような牽引力を持ちたい
	●地産地消や資源・エネルギーを循環する活動を海上のキャンパスで取り組む場ができる
	●持続可能な環境づくりにお金が集まる時代になってきている
	●既存の環境や施設を資源として利用することで環境負荷が小さい開発に
	●国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する)
横浜に住みたくなる・住み続けたい	●住み続けたい街に
横浜のアイデンティティ	●一時的に稼ぐハコはもうよい。海をまず大事にして、できれば何も無いオープンな場所を作りたい
	●オンリーワンのものがあることが大事。とんがったものを考えたい
	●海があるので、海を大切にしたい
海と緑が調和している	●海があって公園がある今の環境を大事にしたい
	●まちの中でのんびり過ごせる場所が少ないため、緑と水のある場所は活かしていきたい
	●緑と水辺をつなげる場所として、山下公園から繋げていきたい
	●海と連続した自然の創成や生物の多様性を生み出す環境をつくる
	●海に囲まれた立地、水辺空間のネットワークを
	●持続可能なエネルギー供給システム、水と緑とエネルギーのネットワークの実現

海に面する特性を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋研究の場のできる事がオンリーワンになる(海上に実験農園など) ●魚を育てて食べられるなどできたら良い ●羽田に直結する高速船を誘致 ●海に囲まれた環境を生かす
開発に緑を取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> ●MMはせわしない ●緑で経済は活性化しないが、緑で開発をアシストする
開放的な憩いの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●チルアウト(ゆったりする)場所が欲しい ●子どもと家庭を大事にしたい。子どもを連れていける場所が欲しい ●海をのんびり眺める緑地 ●自然との共生、緑のネットワーク、人の営みがバランスよく存在する場 ●海があって公園がある今の環境を大事にしたい ●遊歩道、木陰、風の道をつくりたい ●市民の憩いの場、散歩できる場所 ●市民の文化の森 ●子どもが走り回れる場所がほしい(埠頭マラソンなど) ●緑化と文化的コンテンツを掛け合わせた場所にしたい ●港付近の緑は海の風を防いでくれて、憩いの場にもなる ●公園や樹木があって市民が自由に集える、安心して憩える ●自然にやさしい、人の集える、緑のある空間 ●人が集まるための熱環境、コントロールのための緑
港町の風景が見れる	<ul style="list-style-type: none"> ●非日常的な元の港のイメージを残しながら、新しい価値創造によって更新する
市民が楽しめる・利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の健康に資するような開発に
市の収益の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●他の都市が全くやっていないこと、国内・国外に注目されることが必要(具体的には、21世紀の住宅・住環境を整備。それが税収増にもつながる)
周辺の景観と調和している	<ul style="list-style-type: none"> ●周囲の地形を意識したビルの高さの街、高層ビルでない街づくり ●太陽光パネルで景観が悪くなるのはイヤだ
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	<ul style="list-style-type: none"> ●運河チャレンジ、ハマロードサポーターや公園愛護会など市民の活動と連携
新たな産業や技術を創出する	<ul style="list-style-type: none"> ●常に新しいモノを提供する、世界最先端の技術・研究機関 ●他国ができない技術を発信。日本の経済を活性化したい
世界から注目される	<ul style="list-style-type: none"> ●他の都市が全くやっていないこと、国内・国外に注目されることが必要(具体的には、21世紀の住宅・住環境を整備。それが税収増にもつながる)
先進的なまちである	<ul style="list-style-type: none"> ●ヨコハマの観光は海や港のイメージが強い。そのイメージを崩さず先進性と観光を組み合わせたい

	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際的、先進的な緑(建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する) ● 脱炭素をリードするまちづくり ● 注目されるエリア、日本全体のモデルに ● 水素、海洋、自エネなどの最先端の技術、研究機関 ● 日本のモデルとなる
船が停泊する	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内物流を支える 5000 隻の内航船が航行する現状に対して、それらを受け入れる設備がある港は少ない
豊かな緑がある	<ul style="list-style-type: none"> ● フランス山や山下公園など、周辺の緑との連続性 ● フランス山との繋がり、フランス山との一体的なデザイン ● 緑が少ない、自然にふれたい、心を落ち着かせたい ● 樹木やみどりを大切にしたい ● 横浜には緑が少ないから ● まちの近くにある緑は貴重なため残していきたい ● 山下公園から延びる空間・緑が大事 ● 山下公園からの連続(緑を多く)
防災機能を備える	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑地は災害時、避難の生活場所にもなる ● 万一、災害があったときには、避難、復旧の拠点にもできる ● 予備の土地として、仮設住宅などを建てる場所を残しておくことも大事 ● ただし、津波の時は別の場所を考える必要がある

⑧歴史・文化・芸術性

再開発のイメージ	内容
サステイナブルを実現する	●衣食住が循環できる街
	●100年先を考えたまちづくりを進めたい
	●国際的、先進的な緑（建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する）
シンボルがある	●横浜のシンボルになる、山下ふ頭のアイコンになるもの（建物等）がほしい
異文化・多文化にふれる	●世界の文化を体験したい
横浜のアイデンティティ	●横浜の入り口、海の入入口、歴史的な船の入入口としての立ち位置を残していく
横浜の競争力を高める	●歴史＝そこにしかないもの、経済で測りにくいものの方が競争力がある
横浜ブランドを創る・高める	●古いものも新しいものも活かして、「カッコイイまち」に。MMIに足りない何かを残して、横浜のアイデンティティとしたい
	●ブランドやシビックプライドのコアにあり、基軸となるもの
	●金太郎飴の開発にしない
	●横浜への新しい入り口をつくる
	●横浜にしかないものが、国際的な価値、ブランディングにつながる
	●横浜らしさ・横浜の独自性があることが、世界への発信に必要な要素（首都圏の巨大なマーケットが後背にある一等地、地方ではできないことが、横浜の立地特性、発信力の中でできる）
	●市民の誇りを育てていく
横浜らしさが感じられる	●歴史＝そこにしかないもの、経済で測りにくいものの方が競争力がある
	●昔に比べ横浜の魅力が薄らいでいる。もっと歴史・文化を遡り、世界No.1を目指す
	●横浜と他の都市との違いを感じられる。横浜らしさ
	●スカーフや古くからあるお菓子などから、歴史を感じられる景観まで、論理ではなく、「好き」と感じられる価値観が重要
	●横浜にしかないものが、国際的な価値、ブランディングにつながる
	●横浜らしさ・横浜の独自性があることが、世界への発信に必要な要素（首都圏の巨大なマーケットが後背にある一等地、地方ではできないことが、横浜の立地特性、発信力の中でできる）

海に面する特性を活かす	●海を最大限活用（海上交通、運河チャレンジと結びつける、パーク&ライドの拠点など）
開発に緑を取り入れる	●歴史的建造物の活用と緑の融合
港町の風景が見れる	●港と海により発展した横浜の景色を残したい
国際都市としてのイメージがアップする	●横浜は過去、文化交流を進めてきた（中華街以外の外国人街も）
市民が楽しめる・利用できる	●市民が利用する、楽しむ（企業の思惑に引っ張られない）
次世代につなげる	●50年後、100年後の未来の子どもたちのためなるもの
	●100年先を考えたまちづくりを進めたい
周辺地域と連携・相乗効果を発揮する	●市全体の都市デザインに横断的に位置づけた取り組みに
	●内港地区を文化の街にするという位置づけをする。その上で山下ふ頭を位置づける
	●大学や企業のビル、タワーマンションによるまちづくりはそちらでよい
新しい文化が育つ	●新しい歴史・文化を育てていこう
	●大衆文化を育てるインキュベーション、オンリーワン
	●音楽をやる人が駅前ライブからメジャーデビューするように（キーワード・愛称として『はまたまご』）
	●みなとみらいとは違う「地元っぽい文化の街」
	●若いアーティストが表現できる場所に
	●若いクリエイターの応援、発表の場づくり
新たな産業や技術を創出する	●他国ができない技術を発信。日本の経済を活性化したい
先進的なまちである	●ヨコハマの観光は海や港のイメージが強い。そのイメージを崩さず先進性と観光を組み合わせたい
	●国際的、先進的な緑（建物ありきでなく、SDGsやカーボンニュートラルを意識する、緑・環境に関係する先進技術を活用して自然と調和する）
	●2010年2月策定の「次なる50年横浜市は海都へ」提言書の方向。横浜の先進的都市づくりの経験をふまえ、転換期に
	●市民のためのまちづくりの中に先進性をとり入れるという考えにしたい
多世代が楽しめる・交流できる	●子どもたちも楽しめる場
文化・芸術に触れられる	●制作現場を見学したい（トリエンナーレの小規模版など）

	<ul style="list-style-type: none"> ●BankARTのような文化・芸術性、共通の民主性を育むもの ●海外にあるような多機能図書館、絵本の図書館などがあると良い ●子どものうちから芸術や文化に触れられるような機会をつくりたい (ex. 青山にある子どもの城、アートエデュケーションMOMA、現代アートの美術館や多機能図書館など)
文化を活用する・発信する	<ul style="list-style-type: none"> ●行き止まりの土地、駅から離れた立地をカバーする工夫=わざわざ来てもらえるようなもの=アニメ、文化などのアピールできるコンテンツがいる ●文化の交流拠点、文化発信の象徴となるものがほしい ●日本文化の強みを世界に発信したい
歴史・文化を感じることが出来る	<ul style="list-style-type: none"> ●ノスタルジック、ロマンを感じるものがあると良い (ex. 鹿鳴館の復元など) ●元々のふ頭であったことをどこかで体感できる、ふ頭だったからこそこれができる (と言える開発を) ●埋立地だが、歴史を感じさせる施設を作りたい ●横浜発祥の歴史を体験したい、海をテーマとした歴史・文化を発信して魅力化したい ●周囲に歴史・文化・芸術施設はあるが、もっとあっても良い
歴史・文化を尊重する	<ul style="list-style-type: none"> ●日本ならではの歴史から先進性を学ぶ ●歴史を大事にすることは未来につながる (歴史は資産) ●市民の誇りを育てていく ●歴史・文化を尊重したい ●横浜の古くからの文化を大切に ●まちの風土や歴史を大事にしたい ●山下ふ頭がふ頭として存在していた記憶を残したい ●開国や埋立、京浜工業地帯の歴史を伝えたい ●空が見える、空気を感じる、地に足が着いている、人の顔が見える ●「横浜」の名前の由来 (横に長い浜) をアピールしたい ●港の歴史を大切にしたい ●山下ふ頭の歴史を語り継ぐ大切さ ●今残っているのは、いいものだから残ってきた

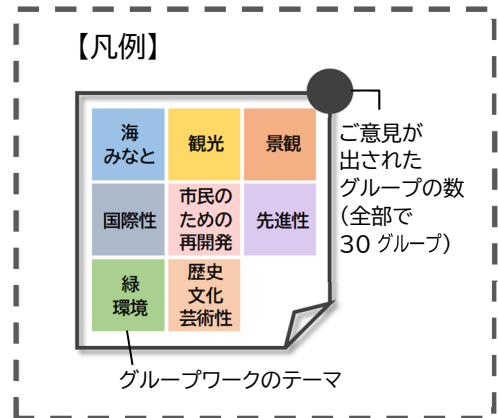
	<ul style="list-style-type: none"> ●元々の中区の風景を再評価（本牧の海辺に広がっていた風景、米軍住宅地のゆったりとした芝生の広がる風景といった「タダっぴろさ」)
	<ul style="list-style-type: none"> ●港湾都市横浜にふさわしい都市像、歴史を踏まえて未来につなぐ
<p>歴史資産を残す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的建造物を活かし、国際性を伝えるまちに ●産業遺産として山下ふ頭を残す（ユネスコ世界遺産登録など） ●利用できる既存施設は活用する ●既存の施設を利用することで埠頭の歴史を継承

《グループワークのテーマと再開発のイメージ(一覧)》

テーマ	再開発のイメージ
海・みなと	サステイナブルを実現する／横浜のアイデンティティ／横浜ブランドを創る・高める／横浜らしい景観が見れる／横浜らしさが感じられる／海と緑が調和している／海に面する特性を活かす／開放的な憩いの場づくり／港に親しみが持てる／港町の風景が見れる／国際交流の拠点になる／国際都市としてのイメージがアップする／市民が楽しめる・利用できる／周辺の景観と調和している／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新しい文化が育つ／先進的なまちである／船が停泊する／防災機能を備える／歴史・文化を尊重する
観光	サステイナブルを実現する／シンボルがある／ナイトタイムの活性化／横浜の魅力をアップする／横浜ブランドを創る・高める／海に面する特性を活かす／交通利便性の向上／国際交流の拠点になる／市全体の活性化に寄与する／市民が楽しめる・利用できる／市の収益の向上／次世代につなげる／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新しい文化が育つ／新たな産業や技術を創出する／居住できる／世界から人が集まる／世界から注目される／先進的なまちである／船が停泊する／多世代が楽しめる・交流できる／滞在時間が増加する／文化を活用する・発信する／防災機能を備える／歴史・文化を尊重する
景観	シンボルがある／横浜ブランドを創る・高める／横浜らしい景観が見れる／誇れる街並みを創る／港町の風景が見れる／周辺の景観と調和している
国際性	シンボルがある／異文化・多文化にふれる／横浜のアイデンティティ／横浜の競争力を高める／国際交流の拠点になる／市の収益の向上／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新たな産業や技術を創出する／世界から人が集まる／先進的なまちである／多世代が楽しめる・交流できる
市民のための再開発	サステイナブルを実現する／横浜に住みたくなる・住み続けたくなる／横浜の魅力をアップする／横浜ブランドを創る・高める／横浜らしさが感じられる／海に面する特性を活かす／開放的な憩いの場づくり／教育・知的探求の場／交通利便性の向上／国際交流の拠点になる／市全体の活性化に寄与する／市民が楽しめる・利用できる／市の収益の向上／次世代につなげる／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／身近な市民生活を豊かにする／居住できる／人材が育つ／世界から人が集まる／世界から注目される／先進的なまちである／多世代が楽しめる・交流できる／誰もが利用できる／文化を活用する・発信する／防災機能を備える／歴史・文化を尊重する／歴史資産を残す
先進性	DX 等を取り入れる／カーボンニュートラルに取り組む／サステイナブルを実現する／横浜に住みたくなる・住み続けたくなる／横浜のアイデンティティ／横浜の競争力を高める／横浜ブランドを創る・高める／海に面する特性を活かす／国際交流の拠点になる／国際都市としてのイメージがアップする／市民が楽しめる・利用できる／市の収益の向上／次世代につなげ

	<p>る／実証実験の場となる／新しい文化が育つ／新たな産業や技術を創出する／人材が育つ／世界から人が集まる／世界から注目される／先進的なまちである／多世代が楽しめる・交流できる／滞在時間が増加する／文化・芸術に触れられる／歴史・文化を尊重する</p>
緑・環境	<p>カーボンニュートラルに取り組む／サステイナブルを実現する／横浜に住みたいくなる・住み続けたいくなる／横浜のアイデンティティ／海と緑が調和している／海に面する特性を活かす／開発に緑を取り入れる／開放的な憩いの場づくり／港町の風景が見れる／市民が楽しめる・利用できる／市の収益の向上／周辺の景観と調和している／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新たな産業や技術を創出する／世界から注目される／先進的なまちである／船が停泊する／豊かな緑がある／防災機能を備える</p>
歴史・文化・芸術性	<p>サステイナブルを実現する／シンボルがある／異文化・多文化にふれる／横浜のアイデンティティ／横浜の競争力を高める／横浜ブランドを創る・高める／横浜らしさが感じられる／海に面する特性を活かす／開発に緑を取り入れる／港町の風景が見れる／国際都市としてのイメージがアップする／市民が楽しめる・利用できる／次世代につなげる／周辺地域と連携・相乗効果を発揮する／新しい文化が育つ／新たな産業や技術を創出する／先進的なまちである／多世代が楽しめる・交流できる／文化・芸術に触れられる／文化を活用する・発信する／歴史・文化を感じることができる／歴史・文化を尊重する／歴史資産を残す</p>

《再開発のイメージのまとめ》



(3) 導入機能のまとめ

グループワークで出された導入機能の具体的なアイデアを整理した結果、下記の5つのカテゴリーに集約することができました。この5つのカテゴリーごとに導入機能の具体的なアイデアと山下ふ頭である理由、期待される効果を紐づけて整理しました。

カテゴリー： ①学術・研究開発機能／②大規模集客機能／③公園・レクリエーション機能／④文化・交流機能／⑤交通機能

①学術・研究開発機能

導入機能・施策（◆施設配置・空間イメージ等）	山下ふ頭である理由	期待される効果
海洋資源の維持と活用を目的とした研究施設		<ul style="list-style-type: none"> ●画一的ではない、新しい港の創造 ●ここにしかない情報が集まる、特殊なタッチポイントとなる
まちの中にとけ込む大学や研究施設（チャレンジのできる教育の場、パラエントメ・スポーツと文化とを結びつけた活動等）	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺に学びの土壌がある（山手の文教地区、ミッションスクール集積の歴史を継承） ●関東学院、神大、国大など大学の都心回帰の動きがある 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちの中で交流しながらの研究や学びが期待できる ●長い眼で見て文化の拠点に育てたい ●若い人がファンになって横浜に定着してほしい（若い人が集まると文化の発信が期待できる）
大学間の共同利用施設（市内27大学が集まって利用できる。アニメや映像などの分野でパラの活動とも結びつけていく）	<ul style="list-style-type: none"> ●教育や文化は持続性ある取り組み、観光に頼るまちづくりは限界がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●共同の活動の中から、経済を活性化させるコンテンツを街に入れこんでいく
先端研究の頭脳が集まる、スタートアップの化学反応が生まれるまち（有名私大の研究施設、企業との協力施設、新しいモビリティの実験フィールド等）	<ul style="list-style-type: none"> ●羽田からのアクセスが良い ●オンオフの切り替えが周囲の街で楽しめる、産学民が連携しやすい立地 ●モビリティの実験的エリアとして区分しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育を大事にするまちとしての横浜のイメージアップ、世界的な知名度・ブランド価値の向上 ●若い人が横浜で住み活動し続けたいと思える ●横浜開港 170 年の歴史を未来につなぐまちづくりになる
大学や企業が開放する施設で市民もスポーツや食を楽しめる（食や農の企業施設や大学と連携、地産地消の企業や大学の食堂レストランを一般にも開放／既存の倉庫を生かして改修活用する可能性。それにより埠頭の歴史もひき継ぐことができるという）	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツに興味がある人が来場するには特に問題のあるアクセスではない 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学の収益にもなる。それを教育に投資できる ●健康や食料の問題に発信していくことは、今後大事になる

先端技術による体験型施設、イノベーションの場（VR、メタバース等による体験・教育施設、eスポーツの研究所、ベンチャー企業の誘致等）	<ul style="list-style-type: none"> ●ゼロベースのまちづくりに市民が参加できる仕組みを 	
<p>実験施設（トレーサビリティがとれるセンシングデバイス／EV自動運転の実験場など）</p> <p>◆南東側に配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●広大なスペースがあり、何も無いゼロ・エリアなので、トライ&エラーができる ●海外とのハブとなる港である（船のアクセス性が良い） 	<ul style="list-style-type: none"> ●サイネージ、移動ロボによって開発者と体験者がリアルタイムにフィードバックできる
「総合大学のあるまち」（市大と国大を統合した総合大学、横浜市大の移転拡充／環境先進性ある防災機能をもつ施設・センター）	<ul style="list-style-type: none"> ●知的文化的活動にふさわしいゆったりした場をつくれる ●海と空の環境を活かす実験ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学と研究施設で海外から人を呼ぶ
<p>企業・大学の誘致、環境配慮型建物やモビリティ（地下に発電、CO2、エネルギー循環できるものを埋めるなど）</p> <p>◆東側に企業や先進性のある研究施設などを誘致</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題も考え、再生可能エネルギーなどを利用したい 	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜のエネルギー問題を考えるきっかけとなる
<p>産学連携、研究開発施設（データセンターを誘致、水素工場、ソーラー＋蓄電池の研究開発など）</p> <p>◆奥は人があまり動かないエリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●海に囲まれている＝エネルギーや原料輸入がしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ●先進性をアピールできる ●企業や学生がお金を落とす ●研究成果を市民や子どもたちに還元できる
開かれた大学（国際大学、市民に開放する）	<ul style="list-style-type: none"> ●敷地が広い（他の大学はビル型だが、この場所はキャンパス型が成り立つ ●海が見える ●アクセスが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ●学生以外の一般の人、多世代、家族、学生が交流・学習できる ●研究能力が向上することによって、市の魅力が向上し、税収UPにつながる
体験型教育研究施設（デジタル博物館、VRをつかった世界旅行体験／全学校とのネットワーク／横浜の歴史を学べる、デジタルアーカイブの構築等）	<ul style="list-style-type: none"> ●広い敷地がある ●横浜の中心部にある ●異文化の玄関口 	<ul style="list-style-type: none"> ●文化コンテンツが集積し、デジタルアーカイブが構築されることで、知の殿堂を築ける ●学校とのネットワークを生かし、未来の子供達へ教育プログラムを発信できる
水産研究所＋横浜産フードコート（実験農場・漁場）	<ul style="list-style-type: none"> ●研究所はへんぴな場所に多いため海・都市に近い横浜ならではの 	<ul style="list-style-type: none"> ●多くの観光客に食糧自給を伝える＋都市型水産業に触れる
最先端研究のための特区指定	<ul style="list-style-type: none"> ●研究しやすい環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ●最先端の技術が集まる
研究施設（企業＋大学）	<ul style="list-style-type: none"> ●広い 	<ul style="list-style-type: none"> ●税収増（多くの通勤・通学者が

◆エリア中央部分に大学、研究所、スポーツ施設、住宅などを配置	●港があるので海外から人を呼びやすい	集う)
研究系中小企業の誘致	●情報が集まり、交わる場所になりたい	●企業間交流を促進
研究開発機能(実験特区、発表の場、スペースポート、JAXAとの連携など)	●セキュリティ性が高い、何かあったとき隔離しやすい ●都心からのアクセスがいい ●国際的なイメージ、人権や人文等に関する研究	●土地の得意性を活かした研究、実験、発信ができる ●ハイクラス人材の所得税が入ってくる
研究開発拠点(日本版シリコンバレー、国立の研究機関・国立大学の誘致、スタートアップ企業間交流の拠点)	●横浜の真ん中にも産業に関連したものをおくべき ●中核部として人の集まる場所になる	●先進性の高い知見が集積出来る
海洋、港に関するテクノロジー発展の拠点(水素等、船への新エネルギー供給施設)	●船は新エネルギーの動力に切り替わり始めているが、新エネルギーの供給拠点は国内にほとんどない	●新しい時代の船舶が出入りしやすい環境が整備された港となる
先進的な研究・実験をする施設・企業・研究所(アクセスの良さ・バツグンの居住性・発信力を活かした専門人材の活動拠点)	●専門人材がそのテーマに没頭できる環境のため ●関連産業の育成のため	●人材と人口増 ●収益増
技術開発の拠点(ゲーム、ロボットなど)	●横浜のシンボルとしての場所	●将来的に需要の高い介護ロボットへの技術転用
言語の研究施設、国際機関の誘致	●文化を取り入れてきた場所、異文化の玄関口だった	●減少している世界の言語研究を通じて、多様な文化の集積・交流が望める
海上の大学まち、キャンパスタウン ◆多くの学生が使う水上アクセス、シーバス(羽田とも結ぶ)	●オンリーワンの土地をユニークに使うべき ●他にはないまちづくりになる	
文化教育・研究機能(大学を中核に、国際図書館、平和博物館、音楽・演劇ホール／野外音楽堂も／ロボット&AIのプラットフォーム開発センター／教育・子育ての情報集約)	●広くて海に開けていて開放的 ●既存市街地とつながっている、近い(根岸、磯子、本牧など他地域との広域的なつながり)	●若い人のエネルギーが集まる、新しい文化が生まれる(ex.ボストンの学生街は平均年齢 27 歳) ●学生が遊ぶ場所が生まれる、伊勢佐木町の書店が活性化する
若者の発表の場(洋館で人目を引き若者たちの作品をシェアしながら展示販売、ワークショップなど)		
環境先進技術を学ぶ、感じられ	●山下ふ頭のアクセスの悪さを考	

<p>る教育施設、公園(科学館、大学、植物園)</p>	<p>慮する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●勤め人、学生など行かなければならない人のためのものをつくる ●環境先進都市は関連する事業のスタートアップ支援募集、補助金が必要 	
<p>大学キャンパス(たとえば世界一の海洋大学、海上キャンパス、環境、水産、物流、エネルギー分野／先進的な環境であることを打ち出して、世界からコンペで提案を募る)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●先端的な大学にとって他にない素晴らしい立地といえる ●世界的にも課題になっている港湾地区の転換をグローバルに考える知の役割を担える ●海辺ならではの技術開発、交通の分野、環境への取り組みに取り組める 	<ul style="list-style-type: none"> ●知や環境を大事にする市のまちづくりの方向性、姿勢をアピール出来る。横浜の価値もあげる ●投資を外から呼び込める ●学生が集まれば経済効果は大きい ●次世代の横浜を担う若い人たちの移住定住を促す(大学時代から横浜ファンを増やす)
<p>市民に開かれたキャンパスタウン(他の人も訪れることができる研究の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆水辺カフェ ◆地産地消のフィッシャーマンズワープ 	<ul style="list-style-type: none"> ●美しい景観を生かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が先端の取り組みにも触れることができる
<p>環境問題に取り組む水辺のキャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆都会のビル型ではないマルチキャンパス ◆ひょうたん島のような緑の丘をつくる ◆多様な生物が育つ人工干潟 ◆ふ頭の付根を水路で切り離せると、関内・関外一周の水上ルートができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●こんな都心なのに、こんなに鳥が来るという環境 ●再生可能エネルギーやゼロエミッションなどの環境への取り組みも進めやすい立地 ●エネルギー、環境、港(これからの水上交通や海運)に関わる実験に向いている 	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋分野は今後有望(他で取組んでいない) ●さまざまな分野からの投資を呼び込める ●みどり税はいつまで続くのか含めて、負担と効果を検討したい
<p>学びから働くまでを横浜で一貫させた機能(世界的にメジャーな大学、国際性のある大学の誘致)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まとまった土地がある ●直接人を呼ぶのではなくイメージで引っ張る ●従来の横浜のイメージとの相乗効果で高めあう 	<ul style="list-style-type: none"> ●人材流入、流出防止 ●まちのイメージアップ ●横浜に住む、働く理由が生まれる ●税収増
<p>世界 No.2 の金融都市を目指したスタートアップ支援機能(画期的な</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜正金銀行があるなど世界 No.2 の金融都市であったため 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外からの訪日 ●スタートアップ起業が増加

事業をする企業への税軽減などのスタートアップ支援、ASIAのCI TIに)		
世界共通の課題に応えられる機能(グリーン水素先端研など)	<ul style="list-style-type: none"> ●世界共通課題であるため(横浜の先進イメージをつくりたい) ●海外からの訪日、留学(セントレア空港的なコンセプト) 	●若者が横浜を目指す、学生の「なりたい像」への具体像になる
エネルギー関連施設(潮力発電等の研究施設)	●産油国ではないという国の事情を解決できる場所にしたい	●人と情報の循環が期待できる
再生可能エネルギーの活用(エネルギーを作れる機能、水素ステーション、土壌浄化、水質浄化など)		●エネルギーインフラの確保
環境対策の「見える化」ができる施設(洋上発電設備、船の陸上電源施設、発電床など/海に関する新しいコトを学び、体験できる教育機関) ◆南東側に配置	●海を最大限に利用できる、船をつけることができる	
建物の緑化、発電(屋上緑化、外壁緑化、施設内の電力を賄う仕組み)		
再生可能エネルギーによるエリア内自給システム	●広い面積があるから	
横浜市大病院の誘致	●市有地がある(=横浜市民の財産)	
医療・サービス機能(小児医療、医療系の大学/入院している親子が泊まれる施設、先進医療が受けられる全面オーシャンビューホテル)	<ul style="list-style-type: none"> ●海洋医療に期待(ハイドロセラピー) ●都心部での更地は貴重なので可能性が大きい ●ふ頭の新たな姿、価値を生む 	<ul style="list-style-type: none"> ●海を見たい!という欲求に答えられる ●老若男女集まる場所になる ●市民の健康が増進する、医療費の抑制につながる(未病の考え方)

《学術・研究開発機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
先端研究施設・海洋研究施設、企業と大学の連携、市民に開かれた大学・研究施設 等 《施設配置・空間イメージ等》 集客施設とは一定の距離をおいた環境づくり 等	<ul style="list-style-type: none"> ●羽田からのアクセスが良い ●周辺に学びの土壌がある ●大学の都心回帰の動き ●実証実験の場にふさわしい ●教育や文化への投資は持続性ある取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●ここにしかない情報が集まる、特殊なタッチポイントに ●世界的な知名度・ブランド価値の向上 ●教育への投資、若者の定着 ●エネルギー問題への貢献 ●健康や食料問題への寄与 等

②大規模集客機能

導入機能・施策（◆施設配置・空間イメージ等）	山下ふ頭である理由	期待される効果
にぎわいを生むエンタメ・スポーツ施設（水族館、世界の一流選手が集うスタジアム、そのための宿泊施設等、税制の優遇、規制緩和も必要）	<ul style="list-style-type: none"> ● 周囲が海に囲まれている、横浜を代表する立地 ● プロスポーツが多く、テニスやラグビー発祥の地でもあることを活かす 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界中から誘客が可能
球技専用の屋内アリーナ・スタジアム（ホテル＋スポーツ・ツーリズム、 ◆ 東京ドームよりは少し小さめ、陸上トラックはつぐらない ◆ 南東側に配置（逆に少し離れた場所にして歩かせることで、賑わいと回遊を生むという考え方もある）	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存施設は使い勝手が悪い（三ツ沢はアクセスが悪い、文化体育館、横浜アリーナは球技専用ではない、横浜国際競技場は陸上トラックがありJFAも使いたがらないなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際大会を開催し、国内外から人を集める ● 非常時には防災施設にもなる ● シンボルとなる
先進医療が受けられる総合施設（アリーナ、ホテル等） ◆ 中央に大学や病院など、融和性の高い機能を配置		<ul style="list-style-type: none"> ● 世界中から患者を呼べる
サッカー専用スタジアム兼コンサート・イベントホールなど ◆ 手前（山下公園側）は、市民のためにお金が落ちるエリア	<ul style="list-style-type: none"> ● 不便な場所だからこそ、強いコンテンツによる集客を求めたい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民が楽しめる ● お金が落ちる
テーマパーク＋リゾート（ホテル、プール、クラブのような交流の場）	<ul style="list-style-type: none"> ● そこが目的となるような施設があると良い ● 横浜の市街地と近い 	
客船ターミナル＋飲食店・ホテル・日本文化の体験施設（ex. サンフランシスコ、ボストン／羽田イノベーションシティのように、日本食、足湯等の日本文化を体験できる）	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地・岸壁が良い。海外の人を海から呼び込むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 元町・中華街への回遊性を生む ● 大手ではなく、中小の会社が出店。MMや中華街にはない商業を入れることで、住み分ける
シンボルとなる施設が必要（シンガポール・チャンギ空港の複合施設JEWELの巨大な滝など）	<ul style="list-style-type: none"> ● 各所から眺められる場所なので 	<ul style="list-style-type: none"> ● シンボルがあれば集客効果がある
先端技術をテーマにしたエンタメ施設（世界最大のプラネタリウム、バーチャル宇宙旅行体験など／開発エリアを見学して回れる、オ	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい文化は港から生まれる ● 文明開化の街ヨコハマにふさわしい ● 宇宙分野は最先端のテーマ 	

<p>オープンなエリアに)</p> <p>◆南東側に配置</p>		
<p>海に関する集客施設(世界最大の水中水族館、海に関する歴史・文化・芸術を学ぶことができる教育機関など)</p>	<p>●横浜＝海のイメージ</p>	
<p>コンセプトホテル(文化施設と融合、泊まれる図書館、美術館)</p> <p>◆内港地区の眺望を活かすために西側に配置</p> <p>◆南側ふ頭入口には山下公園と連続するに広場を配置</p>	<p>●大消費地／人口地／日本の玄関施設から近い</p> <p>●ロケーションが良い</p>	
<p>宿泊機能(観光用ホテル、リゾート)</p>	<p>●ホテルが少ない</p> <p>●都市型リゾートホテルがない</p>	
<p>YDP(横浜ディズニーポータルランド)</p>	<p>●海上交通が利用できる(食、海外クルーズ船)</p> <p>●住民への騒音問題を回避できる、インフラを一から用意できる土地の広さ</p>	<p>●世界から人を呼び、財政を潤す</p>
<p>みんなが楽しめるスポーツパーク(24時間楽しめるエリア)</p> <p>◆中央にサッカー専用スタジアム・ライブ会場</p> <p>◆山下公園側に都市型スポーツの集まる場所(スケートパーク、BMXなど)</p>	<p>●賑わいを持たせるためには集客力のあるものが必要</p> <p>●住宅地から遠いので、騒音問題をクリアできる</p>	<p>●集客力、外国人も集まる</p>
<p>メタバース・エンタメ施設(e スポーツ大会、アニメ・マンガ体験など)</p>	<p>●最先端の技術集積と、広大な敷地を使うことで魅力を生み出すことができる</p>	<p>●世界中で巨大化する競技人口にとって中心的なエリアとなる</p>
<p>国際大会が開催できるスポーツ施設(特にテニス／国際大会で使っていないときは市民が優先、優遇して使える)</p> <p>◆森に囲まれた市立のインターナショナルスクール</p> <p>◆給食センター</p>	<p>●野球、サッカー施設は既にある</p> <p>●羽田空港からもアクセスが良い</p> <p>●エンタメ、MICE、観光はみなとみらい地区などに既にある</p>	
<p>テーマパーク(ポケモン、米軍、海のイメージなど／飽きられないように、期間限定のコンテンツにする、テーマを固定せずニーズに合わ</p>	<p>●広い、土地がフラット</p> <p>●騒音を気にせず済む</p> <p>※市民が気軽に来られる場所ではないので、来街動機となるテ</p>	<p>●テーマパークやスポーツ施設に訪れた人が、中華街で食事をしたり、元町でショッピングを楽しむ</p>

せて流動的に／宿泊施設を併設) ◆エリア全体をテーマパーク化 ◆3つの突端部分に海を楽しめる 観光ゾーン(あるいは企業の保 養所)	ーマが必要	
世界の注目を集める施設(全世界 の参加を促すeスポーツのスタジ アム)	●横浜港の中心で世界からの関 心を集めることで、横浜全体に 経済を循環させる ●若い世代を集めるきっかけとな る	●山下ふ頭だけでなく、横浜全体 に様々な世代、世界の人々が 訪れる
ディズニーの誘致(クルーズ+ディ ズニーストア	●高い事業性がある	●浦安と水上交通でつないで、ディ ズニーコンテンツで東京湾ネ ットワークを形成できる ●長期の大きな収入が得られる
ディズニークルーズの寄港	●カジノがなくなったので呼べる 可能性がある	●世界的にも人気のあるクルーズ で注目される ●経済効果は大きい
エンターテイメントのための施設 (イベント・コンサート会場、劇場+ 国際交流センター・国際会議場)	●広さ、アクセスの良さ(海外から のアクセス) ●セキュリティが高い、有事の際に 隔離しやすい	●人が集まる ●文化を次世代につなげる ●MICE+ホテルで1日中おもて なしが出来る ●レストランやバーが生まれる
誰でもいつでも使えるスポーツ施 設 ◆全天候型の屋内施設(開閉式 の屋根)		
新しいスポーツの拠点(スケボー パーク、BMX、海を背景としたプ ール、eスポーツスタジアムなど)	●周辺への音を気にしなくてもよ い環境 ●広大な港の空間のなかで活動 できる	●これまであまり表に出て活動で きなかつた様々なスポーツをやる 人が集まり、楽しむことができる
内航船が立ち寄れる施設(港湾施 設のスケールを活かした商業施設 +宿泊施設、倉庫) ◆大型スーパー、冷凍倉庫をその まま使えるような生鮮売り場 ◆コンテナホテル	●内航船は国内でも重要な役割 を担っているが、なり手が減少し てきて業界は危機的状況にあ り、将来的に内航船の船長な ど、船に関わろうとする子ども たちを増やしたい	●内航船やそこで働く人の姿を日 常的に見ることができる
既存資源の利用(コンテナ・コンテ ナ船、倉庫など) ◆コンテナ・コンテナ船を利用した ホテル	●港として使われてきた歴史を持 っている ●周辺の宿泊施設は高い	●港の歴史を感じる部分を残すこ とができる ●来た人もコンテナになって流通 するような体験ができる

◆倉庫を屋台に改造		●安く泊まれる場所を中心部に作ることで、様々な背景の人が滞在できるようになる
外国からのゲストがきた時のおもてなし機能(ラグジュアリーなレストラン、日本美術館、ポケモンパークなど)	●おもてなしにふさわしい景観がある ●まとまった土地がある ●原三溪の意思を受け継ぐ	●観光収益の増加 ●多様な人が楽しめる(富裕層が楽しめる施設が少ない) ●世界から人を集める
泊まれる機能(観光客だけでなく／スポーツの合宿所、ペットと泊まれるホテルなど)	●東京から高速船でアクセスできる ●都市とふ頭の距離感が良い	●税金・人口が増える(長期的に見込めるマネー) ●一般の人もお金を払う、企業もお金を払う ●働く人が集まる、家族が集まる
スポーツ・eスポーツ(スポーツのテーマパーク／性別、年齢、障害などのバリアフリー、次世代スポーツ施設／スケートボード場、合宿所、芝生、グラウンド／世界中のプレイヤーが集まる e-sports 施設とホテル)		●新しさ=ヨコハマのイメージアップ ●新体験(希少性) ●新しさと文化の融合、街としてのブランディング
スポーツ(アリーナ) + エンタメ・ビジネス拠点(ウェルネス関連企業研究所や新しいコンセプトの病院、保育所・子供向け施設、衣食住の体験の場としてのリゾートホテルなどの複合)	●広大な敷地を既存の制約にとらわれずにゼロベースで作られる場所 ●世界から人を集める拠点となる立地 ●市民、観光客等が参加、交流しやすい機能	●プロジェクトYの推進(クオリティ・オブ・ライフを実験・研究し、サービス・製品を生み出し、実証・体感できる場・機会を提供、持続的な取組に発展する) ●実験都市として活性化 ●ビジネスが活性化する、市の税金につながり、市民にも多様な価値が還元される ●ウェルネスの増進 ●多様なコミュニケーションができる場となり、国際的に注目される
フィッシャーメンズ・ワーフ(食のテーマパーク)	●中央卸売市場が老朽化しているので移転する	●ハマの農産物を知ってもらうとともに、全国との交流の場にできる ●道の駅のような公設の場所があれば、民間ではやりにくいマルシェやシェフを集める活動も出来、発信力がある
ナイトタイムの活性化=夜景を活かす(開放感のある公園、周辺地)	●東京や千葉からも近く、海からアクセスできる強みを活かす	●夜景の需要は高く、マリンスポーツや海水浴場もあれば幅広

区の景観づくり等)	●周辺に観光地があり、連携して活性化できる	い層が集まる ●夜の安全性を高める
トライアスロンなど、海×スポーツ＝マリンスポーツができる場所に	●大規模なものはここでしかない	●世界から注目される
モータースポーツの街、街なかでのF1開催(ex.モナコ/オフシーズンもホテル等で楽しめる) ◆外周をF1コースにし、中側に街をつくる	●ふ頭では騒音問題が発生しない。FIA(国際自動車連盟)がコース形状などを評価している	●世界の人が注目する ●日産などの地元企業も盛り上がる
アニメなどのエンタメコンテンツ	●アニメにはインバウンドを誘致する力がある ●敷地が広く、様々な機能・コンテンツを導入できる ●横浜の玄関口としてインパクトを与えられる	●インバウンド誘致による税収UPが見込める
若者向け施設(デートスポット、飲食店、フットサル場など)	●若者が来る動機付けが必要	●若者が遊びで一日過ごせるようになる
スポーツ施設(国際競技場、市民利用も出来る)		●シンボルが生まれる
海環境の関連施設(水族館+ホテルなど) ◆ふ頭の突端に配置		
展示場のような大型複合施設を緑の中に	●お金を払わなくても楽しめる場所	●利益第一ではない再開発に
宿舎付き産学連携の場、展示場などを整備したい	●観光と宿泊、そこに行かないと出来ないようなことをつくる	●横浜の産業をつくる＝税収が確保できる

《大規模集客機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
スタジアム・屋内アリーナ、展示場、マリンスポーツ、モータースポーツ、日本文化等の体験施設 等 《施設配置・空間イメージ等》 宿泊機能、客船ターミナルとの融合 等	●海に囲まれた立地特性(景観、騒音対策等)を活かしたい ●プロスポーツ等の既にある地域資源を活かしたい ●最先端技術の集積と広大な敷地を使うことで集客力のあるコンテンツや魅力を生み出したい 等	●国内外から人を集められる ●市民も楽しめる ●周辺地区との回遊が生まれる ●ナイトタイムの活性化 ●事業収益が見込める ●非常時には防災施設になる ●新しいシンボルとなる 等

③公園・レクリエーション機能

導入機能・施策(◆施設配置・空間イメージ等)	山下ふ頭である理由	期待される効果
自然＋先進性の融合(先進的な側面は東京の方が勝っているので、自然＋先進性をキレイに融合させる)	<ul style="list-style-type: none"> ●海辺の公園には緑・芝生が少ない ●再開発やF1等はエネルギーを使うし、空気も汚れるから反対者もいる 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境をアピールする
海と緑の融合(建築条件として、緑化率等を設定) ◆エリアの外周に植樹(大木だけでなく、芝生、花なども混ぜて自然を演出)	<ul style="list-style-type: none"> ●眺望が良い 	
海×緑＝親水公園(都市公園法にしばられない自由な場所、無料で入れる) ◆山下公園から連続する親水公園(ex.大通り公園) ◆中層の建物屋上があって、コンサートができる ◆ジョギング・サイクリングができる(自転車ロードレースも)	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●誰でも使用できる場所が一部でもあることで、開発に対する市民理解が得られる(税金を投入してもやるべき)
「ダッシュ海岸」(水族館＋市民が入れる砂浜、磯、岩場、生き物を観察できる／ex. いわきの水族館)	<ul style="list-style-type: none"> ●癒しの場、学習の場として海辺を生かして魅力的 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもも大人も楽しんで学べる
大きな丘(子供のための広場、市民の憩いの場) ◆ふ頭の中央に大きな丘、その上を森にする ◆森と一体化した海沿いのデッキを整備	<ul style="list-style-type: none"> ●これだけ大きなボリュームの緑地が横浜にはない 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が住み続けたい場所になる
学生・研究者、訪れる市民どちらにとっても快適な環境づくり(キャンパスの緑、公園、砂浜、車とは分離されたサイクルコース等／海辺の風にも配慮した環境づくりが必要)		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜開港 170 年の歴史を未来につなぐまちづくり
山下公園の延長としての憩いの場(無人電動カーで回遊できる、サッ	<ul style="list-style-type: none"> ●山下公園との連続性を大事にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●大さん橋や象の鼻、山下公園との違いも出していきたい

カーなどの芝生練習場など ◆商業施設の上に庭園		
緑の広場(緑以外に何も無い、緑の空地広場 10ha を目標に/ex. セントラルパーク、竹芝のウォーターフロント)	●緑は大切	
アウトドア、健康+避難場所にもなる施設(ヨガ、木陰で体操、グランピング、サイクリングロード、子供プレイパーク、海水から淡水にできる施設など)	●防災と緑オープンスペースを一体で考えるべき ●健康づくりを進めたい	●災害時に千人以上がテント設置できる
芸術性の高い公園(遊具やモニュメントではない、地形(丘)が芸術的な公園/ex. モエレ沼公園)	●景色が良い(周囲を360度見渡せる) ●横浜には大規模な親水公園がない	●子育てファミリーを引き寄せ、定着させる(ex.南池袋公園)。税金を投入しても整備すべき ●他地域/機能との相乗効果が生まれる ●災害時にも機能する
緑があふれる公園	●都心部に近くて広い、一等地としての価値がある	
スケボー、球技など市民のための広場・公園(三ツ沢競技場の移転)		
観光・市民利用スペース(イベントスペース、グランピング施設、動物園など)	●敷地の広さを生かす	●観光による集客に止まらない発展が見込める ●住み続けたいと思える街になる
山下公園と連続した憩いのエリア ◆山下公園側に集客施設・小さい丘をつくり、地上部を駐車場に ◆山下公園世界の広場を再開発(駐車場を山下ふ頭側に)	●山下公園や大さん橋から良く見えるところだから	●内港地区全体の景観の調和
市民のためのエンタメ施設(ハイテク児童遊園地) ◆山下公園側に配置	●子どもたちが楽しめる場所が必要	●子どもたちが喜ぶ、横浜を好きになる ●子育てしやすい環境づくり
環境を生かした憩いの場(ふ頭全体を緑化、自由に市民が出入りできる)	●これだけ大きなボリュームの緑地が横浜にはない ●山下公園やフランス山と連続させる	●市民が気持ちよく過ごせる場所になる ●自然環境、生態系にとって良い
未来の「コウエン」(子どもが集まるまち、遊び場、SDGsの体験型施設/山下ふ頭のコンセプトを子ども	●山下ふ頭ならではの空間大きさやみなどの環境を活かすことができる	●将来を担う子どもたちが山下ふ頭を自分ゴト化して考える ●子どもも楽しめる街、次世代を

もたちが考えるプロセスの導入)		育てる
「話題になる緑の風景」をつくる (広大なひまわり畑、柑橘系の木を植え蝶が舞う街)	●空間の大きさを活かす	●都心部にはない緑の風景を創り出せる可能性
憩いの機能(野外イベントスペース、海に浮かぶことのできるリラクセススペース) ◆山下公園から一続きの公園、関内とも連続		
休憩・のんびりできる場所(心がリラックスできる、雨の日ものんびりできる/休憩できる、滞在できるホテル) ◆豪華客船を使ったホテルなど	●都市から少し距離があり、海や港の景観が活かせる ●コンテナや豪華客船を使い、非日常的な場所を作ることができる	●都市の中の憩いの場所となる ●外からの来訪者が来るきっかけとなる ●市内の人も外からくる人も使える場所となる
サイクリングコース・歩く回廊(港を一周できる、景観を眺めながら走れるサイクリングコース・回廊)	●海沿いに面しており、まとまったある程度の距離のコースを確保できる ●水辺、緑、港を堪能できる	●横浜市民が日常的に使うことができる
海と触れ合う機能(海で遊べる、海辺に触れる自然環境のある公園など)		
「ただっぴろば」(大規模な屋外ライブ、サーカス、臨港フェスティバル、若者がアーバンスポーツを思い切りできる場所) ◆直径 450m の芝生、円形の広場、周りは並木・緑で囲む	●都心には大きな屋外での催しができるスペースがない(音を出してもよい場所) ●建物がないスペースこそ魅力的 ●屋外スペースは使い回しができる ●印象的な風景を作りたい	●港の花火大会も楽しめる ●さまざまな交流の場になる。特に若い人たちを惹きつける。若い人たちとの交流に期待したい ●災害に備えたスペースとしても有効
広場・緑地の確保(緑があっても何にでも使える広場・公園、構造物は不要) ◆全体が公園になっていて、その中に施設が点在する ◆山下公園の延長	●モノではなくコトが大切 ●平らな土地が貴重 ●横浜市としてのビジョン、思いが大事	
森と都市が融和する場(水と緑が体験できる公園)	●都心臨海部に公園が不足 ●人・技術・自然の調和効果を測る	●「ウェルネス」や「出会い」の場を豊かにする ●先進的環境技術の実装

《公園・レクリエーション機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
海を感じる大規模な親水公園、ウォーキング、サイクリングなどのレクリエーション 等 《施設配置・空間イメージ等》 山下公園との一体性、周辺地区との景観の調和 等	<ul style="list-style-type: none"> ●海と緑を一体的に体感できる場所にしたい ●市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい ●山下公園との連続性が大事 等 	<ul style="list-style-type: none"> ●先進的な自然環境を世界にアピールできる ●内港地区全体の景観の調和に寄与する ●開発に対する市民理解が得られる ●子育てしやすい環境づくりに寄与 等

④文化・交流機能

導入機能・施策（◆施設配置・空間イメージ等）	山下ふ頭である理由	期待される効果
世界の港を知るための図書館・美術館・市民の広場（開港～昭和以前の街並みを再現、実際に市民が生活する）	<ul style="list-style-type: none"> ●海に面した横浜らしい場所、昔から海外の様々なものが入ってくる場所だから ●若い人に歴史を知ってもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民と来街者の交流、様々な国・文化を体験できる ●エンタメ施設として収益が見込める
大野外劇場・コンベンションセンター（文化を発信する場、市民の歴史を集めた資料館等）	<ul style="list-style-type: none"> ●神奈川には野外劇場がない ●パシフィコだけでは足りない 	<ul style="list-style-type: none"> ●ここに来れば横浜の歴史が分かる ●横浜から文化を発信する＝横浜が輝く ●全国あるいは国際的なハブとなる
芸術関連施設（有名建築家による美術館、コンサートホール、オペラハウス／バーチャル美術館／体験、学びができる施設） ◆突端部分の3箇所を、歴史・文化・芸術ゾーンに	<ul style="list-style-type: none"> ●世界と日本を結ぶ港、船が入港できるから 	<ul style="list-style-type: none"> ●港なので、外国クルーズ客船が入港したときに、海外の人を対象としたイベントができる ●横浜の景観、ブランドが形成できる立地、広さがある
歴史博物館（横浜発信のモノ・コト展示、日本文化、横浜の文化を体験できる） ◆突端部分の3箇所を、歴史・文化・芸術ゾーンに	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜は西洋文化発祥の地 	
LGBTQに関するミュージアム	<ul style="list-style-type: none"> ●外国人が来るので 	
文化交流できるコミュニティハウス、集会所、交流拠点＋現代アートの美術館、子ども向けのアート教養施設	<ul style="list-style-type: none"> ●観光資源としても活用できる ●せっかく海に開けた施設は未来や希望を感じる施設が必要だと思うから 	<ul style="list-style-type: none"> ●芸術作品を通して、多様化している課題を考える機会がつけられる ●文化芸術を楽しめる人を育てる、横浜市の未来につながる ●大人から子どもまで市民が何度も訪れたい（横浜の歴史を感じる場所で、考えをめぐらせることが重要）
音楽ホール（イベントホール）	<ul style="list-style-type: none"> ●海からアクセスできる（海上交通を活かす） 	<ul style="list-style-type: none"> ●シンボリックな存在に ●集客が見込める ●市民が楽しめる
博物館（関東大震災の記念館、記念碑的なものでも良い）	<ul style="list-style-type: none"> ●都市の記憶を継承したい 	<ul style="list-style-type: none"> ●未来の教育に生かせる

自然系の博物館(生物、気象等を学ぶ施設) ◆公園の中に整備	●都心部にないから	●子どもがリピートする ●目玉となる施設になる
水“性”館(大きな生簀に横浜の魚を放流することで、地元の魚を食べることができる等)		●日本文化を体験できる(ex.刺身) ●災害時に食を提供できる
図書館を中心とした文化発信拠点 ◆建物は有機的なデザインに	●情報が集まり、交わる場所にしたい	●人と情報の循環が生まれる
海の博物館(横浜と海の歴史などを展示)	●海に囲まれているから	
みなとみらいを含む横浜港の開発の歴史を伝える博物館(チームラボのような子どもも楽しめるコンテンツ)		
教育・芸術の拠点(市民ギャラリー、研究施設、留学生のための寮)	●各エリアの中心に位置しており、広大な敷地がまとまって残っているため ●国際性の場所として横浜の港は歴史的背景からも相応しい場所	●横浜から世界へ、世界から横浜へ人や教育、情報を発信できる
教育普及・芸術発表の場 ◆森を作り、海と森の両面で生態系を学べる場所 ◆芸術系の教育施設と展示ができる場所	●森、海、都市が隣接し、まとまった土地があるため、研究、教育に適している ●各エリアからアクセスできる位置にある	●地域全体が教育エリア、研究場所として維持管理される ●新しい学校の在り方が生まれる
「海とミナトのガッコウ」(海や港を身近に体験したり学んだりできる、親子で体験できる環境教育施設、海園農地など)	●三方を海に囲まれた環境を最大限活用	●これからの港と横浜を担う次世代を育成 ●横浜と山下ふ頭の環境をアピール ●市民が楽しむことで、市外にも波及 ●学校の修学旅行でも使ってもらえる ●様々なアクティビティがあることで、平日も盛り上がる
横浜の名物料理が楽しめる「体験食堂」(夜も健全に楽しめる街を実現するための「真夜中のパン屋さん」など)	●横浜ならではの港の景観を楽しめる(空間とセットで、最も人に訴求する「食」の体験を提供)	●健全な夜のまちを実現 ●横浜の食の魅力を発信
文化の発信・交流拠点(モダンアートミュージアム、ジャムセッション)	●横浜美術館と対をなしながらも異なるコンセプトのアートや文化	●真の意味での国際交流と文化の発信拠点となる

のメッカなど)	の拠点となる	
伝統文化の体験(寄せ木細工、陶芸、和紙など)	●最先端の技術と対比あるいは掛け合わせを行うことで伝統文化の魅力を伝えたい	●外国人にアピールできる
海洋資源を活かす施設(魚の養殖&魚が見れる水族館など)	●海があるので、目の前の海で育てた魚を食べられる	●海を大切にしようという意識を育てられる
美術館(北斎の浮世絵「神奈川沖浪裏」の風景が感じられる施設、天候と一体化するようなものなど)	●市民も楽しめる	
ビニールハウス(果物や野菜)		●食糧自給 ●ふ頭産の農産物を特産品に
交流機能(山下埠頭の歴史を表現したスポット・展示場)	●現在と過去と未来の繋がりがわかる	
滞在型火葬場と葬儀施設	●火葬場が少ない	

《文化・交流機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
図書館・美術館・博物館、音楽ホール、野外劇場等の体験・交流施設等 《施設配置・空間イメージ等》 公園と一体的な整備が求められている等	●海に面した横浜らしい場所を活かしたい ●開港・横浜発祥・埠頭の歴史、都市の記憶の継承 ●若い人に歴史を知ってもらいたい等	●市民と来街者の交流を生む ●子どもから大人まで市民が何度も訪れたい、愛着を持てる ●文化・芸術を楽しめる人を育てる等

⑤交通機能

導入機能・施策(◆施設配置・空間イメージ等)	山下ふ頭である理由	期待される効果
「よこはまeループ」広域からの交通結節点、域内ウォークアブル、バリアフリーの実現	<ul style="list-style-type: none"> ●陸海空、海外からのアクセスのしやすさを活かす 	<ul style="list-style-type: none"> ●自動運転や翻訳ロボットを回遊させることによって、海外から来た人のコミュニケーションのハードルを下げる ●回遊を生み、にぎわいを創造する
交通ターミナル(LRT、ロープウェイの延伸/ロープウェイの延伸など)	<ul style="list-style-type: none"> ●ふ頭までの交通の利便性が悪い ●既存の交通を利用し、新しい交通システムと結び付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ●誰もがどこからでも来やすい、交通利便性の高いエリアになる
多目的な船が入港できる岸壁(客船、練習船など)		<ul style="list-style-type: none"> ●多目的な海上利用が進む
新しい環境に配慮した交通(新世代海上交通、空中交通システム/羽田からのアクセス、高速道路へのアクセス・スマート入場口を用意など)	<ul style="list-style-type: none"> ●羽田からのアクセスがとれる、大黒埠頭と直接結ばれる ●陸も海もアクセス可能 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外から人を呼び外貨を稼ぐ ●港の玄関口に位置しており、横浜の象徴的な役割を果たす
海からのアクセス ◆先端には海上交通を推進するポートを配置	<ul style="list-style-type: none"> ●立地的に開発可能、利便性が高い ●街の眺望、海の眺望を活かせる 	
エリア内交通(循環バス、観光船発着所、無人運転の実証実験場など)	<ul style="list-style-type: none"> ●奥のエリアへの回遊、利便性が必要(よっぽどのものでなければエリアを使い切れない) 	<ul style="list-style-type: none"> ●集客が見込める
フェリー発着場(お酒を楽しみながら、外国人がやってくるイメージ)	<ul style="list-style-type: none"> ●大さん橋とは異なる景色がある ●街にダイレクトに訪れたい ●(課題)大さん橋⇄山下ふ頭⇄中華街のトライアングルは回遊性が厳しい 	
地下駐車場の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●自家用車で来られるようにしたい。そうでなければ、わざわざ来る場所ではない 	
駐車場の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●車の利便性が高い ●市内全体から来やすい(しかし渋滞が心配) ●海と触れ合える自転車道やウォーキング道路もほしい 	
公共交通アクセスの確保(路面電		

車の復活、ユニバーサルデザイン の2階建陸上バス、水上バスなど)		
海からのアクセス(海から川・運河 へのアクセス、羽田空港や千葉な どと結ぶ航路、はしけ的な機能が あると良い)	●海を活かすことで観光客にも喜 ばれる(エンタメとしてはいいが 公共交通としては課題もありそ う)	●シーバスなどをもっと通勤手段 に活用出来る
多彩な交通(ゼロカーボン船の運 航、自転車やマラソンコースになる 水辺沿いの道路、電車の乗り入 れ・車庫の上部を緑の広場に)		
交通システムの充実(ふ頭奥まで のアクセスを確保、水上交通で横 浜やみなとみらい、羽田空港と接 続) ◆ふ頭外周部を新交通で巡れる	●羽田空港からのアクセスが良い ●広い	●陸海空の全ての交通と繋がる場 所となる
AIなどによる混雑緩和システムの 活用	●集客施設があるため、混雑が生 まれる	
交通アクセス・回遊性の創出(シー バスの拠点を増やす、湘南新宿ラ インの京浜東北線への乗り入れな ど) ◆公園、釣り堀、キャンプ、お花畑		
交通(外部からふ頭までのアクセ ス+ふ頭内の回遊) ◆地下鉄の延伸、水上交通、シャ トルバス、LRT等 ◆レンタルセグウェイ、自動運転 バス、水素バス、駐車場等	●アクセスが悪い、交通網が整わ ないと何も始まらない	
交通アクセス・回遊性の創出(シー バスによる水上移動、場内カート による陸上移動)	●既存の交通を生かす	●ふ頭内外の移動がスムーズに なる ●新しい技術を体験できる
ドローンタクシーの導入	●羽田からアクセスに使えると良 い	
海の駅・船着き場の整備(山下→ 晴海→幕張の行き来など)	●山下ふ頭が持つシンボル性	●高速船で外洋に出れる ●交通利便性が向上する
水上交通拠点	●横浜港内を行き来しやすい場 所にある	●横浜港や川を使った交通が活 発化する
交通機能(シーバスを含めた海の 交通とそのターミナル/全自動シャ トルバス、シャトルカー、動く歩道		

<p>のネットワーク、無料電動自転車など)</p> <p>◆ふ頭を回遊するモノレール、海をまたぐロープウェイ、海上交通など</p>		
<p>交通アクセス(エアキャビンの延伸、海、陸、空、様々な交通アクセスを繋げる、成田からのヘリポートなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜だけでなく、世界中から人が集まる場所にするには、まずは交通手段を整える ●立地は良いが、アクセスが悪いことを解消しなくてはならない 	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜港に人が訪れるきっかけを作ることで、都市など横浜全体に人が循環する ●交通手段も楽しめるものとするこ とで、移動手段が経済を回すき っかけとなる
<p>スマートモビリティ拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●広大なエリア内の移動手段、周辺エリアもつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ●都心臨海部の個性ある多様な エリアの一躍を担う ●新たな交通システムの実証
<p>海上交通拠点(交易の場)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ウォーターフロントの拠点として個性を活かす ●「港」を体感できる魅力的で利便性高い移動手段となる ●次世代の海運や検疫の提供 	

《交通機能のまとめ》

導入機能・施策	山下ふ頭である理由	期待される効果
<p>交通結節点の整備(陸・海・空)、エリア内ウォークアブル、バリアフリーの実現 等</p> <p>《施設配置・空間イメージ等》</p> <p>ふ頭へのアクセス手段とふ頭内回遊手段の創出 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●陸・海・空、海外からもアクセスしやすい ●市民目線では遠い、広すぎるとの意見もある ●街の眺望、海の眺望を活かせる等 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外から人を呼び外貨を稼ぐ ●回遊を生み、にぎわいを創造する ●海の玄関口として象徴的な役割を果たす ●先進的で多彩な交通を実現する 等

《具体的な導入機能のまとめ》

学術・研究開発機能

先端研究施設、企業と大学の集積等

《期待される理由・効果等》

- 実証実験の場にふさわしい
- 世界的な知名度・ブランド価値の向上
- 羽田からのアクセスが良い
- 教育や文化への投資は持続性ある取り組み
- 教育への投資、若者の定着
- エネルギー問題等への貢献等

先進性

ブランド力の向上

立地特性

教育文化

諸問題への貢献

大規模集客機能

スタジアム、屋内アリーナ、展示場等

《期待される理由・効果等》

- 国内外から人を集められる
- 事業収益が見込める
- 海に囲まれた立地特性(景観、騒音対策等)を活かしたい
- プロスポーツ等の既にある地域資源を活かしたい
- 非常時には防災施設になる等

観光

市の収益の向上

立地特性

地域資源活用

防災

公園・レクリエーション機能

親水公園、遊歩道、サイクリングコース等

《期待される理由・効果等》

- 市民が憩える、誰もが楽しめる場所にしたい
- 子育てしやすい環境づくりに寄与
- 海と緑を一体的に体感できる場所にしたい
- 山下公園との連続性が大事
- 先進的な自然環境を世界にアピールできる等

市民利用

子育て

立地特性

自然環境

文化・交流機能

図書館・美術館・博物館、音楽ホール等

《期待される理由・効果等》

- 開港・横浜発祥・埠頭の歴史、都市の記憶の継承
- 海に面した横浜らしい場所を活かしたい
- 市民と来街者の交流を生む
- 子どもから大人まで市民が何度も訪れたい、愛着を持てる
- 文化・芸術を楽しめる人を育てる等

歴史

立地特性

市民利用

文化芸術

交通機能

交通結節点の整備(陸・海・空)等

《期待される理由・効果等》

- 陸・海・空、海外からもアクセスしやすい
- 回遊を生み、にぎわいを創造する
- 先進的で多彩な交通を実現する
- 街の眺望、海の眺望を活かせる
- 海の玄関口として象徴的な役割を果たす等

利便性の向上

立地特性